

第72回広島県中学校視聴覚教育研究大会 福山大会

研 究 主 題

新たな時代を豊かに生きる力の育成
～ 学び続ける姿を目指した効果的な ICT の活用 ～



日 時 令和7年10月29日(水)

会 場 福山市立城東中学校

主 催 広島県中学校教育研究会 視聴覚教育部会

共 催 広島県教育委員会

後 援 福山市教育委員会

公益財団法人 日本教育公務員弘済会広島支部

も く じ

ページ

挨拶	1
広島県中学校教育研究会視聴覚教育部会 部会長 中本和彦	
広島県中学校視聴覚教育研究大会現地実行委員会 委員長 永久進一	
祝辞	3
福山市教育委員会 教育長 小林巧平 様	
1 大会要項	4
2 開会行事	6
3 令和7年度広島県中学校教育研究会視聴覚教育部会研究計画	8
4 研究報告	10
福山市立城東中学校	
5 公開授業 学習指導案	20
6 研究協議	63
7 実践報告	
(1) 江田島市立大柿中学校	64
(2) 三原市立大和中学校	71
8 講評	76
広島県教育委員会事務局 義務教育指導課 指導主事 有田貴信 様	
9 講演	78
東京学芸大学大学院 准教授 登本洋子 様	
10 閉会行事	80
11 研究大会の概要	81
12 役員名簿	83
13 研究同人	83

御挨拶

広島県中学校教育研究会視聴覚教育部会
部 会 長 中 本 和 彦
(広島市立戸坂中学校長)

第72回広島県中学校視聴覚教育研究大会福山大会を、県内各地から多数の会員の皆様をお迎えし、ここ福山市において開催できますことを心より感謝申し上げます。

私たちはいま、かつてない速度で変化し続ける社会のただ中にいます。AI、ビッグデータ、IoTといった先端技術が生活や産業に浸透し、Society5.0の時代が本格的に動き出しています。また、新型コロナウイルス感染症の経験も重なり、社会はますます予測困難で複雑なものとなってきました。

こうした時代において、子どもたちが未来を切り拓いていくためには、自分のよさや可能性に気づき、他者と協働しながら課題を解決していく力が不可欠です。そしてその土台となるのが、「情報活用能力」であり、これを育てることが私たち情報教育に携わる者の重要な使命であると考えています。

OECDの「ラーニング・コンパス2030」でも指摘されているように、これからの社会では、読み書き能力や数学活用能力・数学的リテラシーに加えて、データ・リテラシーやデジタル・リテラシー、社会情動的スキルといった力が求められます。まさに情報教育は、これからの教育の中核的な存在として位置づけられているのです。

GIGAスクール構想による1人1台端末の整備により、ICT環境は整いつつあります。今後さらに求められるのは、これを「個別最適な学び」や「協働的な学び」と結びつけ、子どもたちの探究心や創造力を引き出す実践の広がりです。その際大切なのは、「ICTをどう使わせるか」ではなく、「子どもがICTを通じてどう学んでいるのか」という視点です。私たちはこれまでの研究・実践を通じて、ICTが主体的・対話的で深い学びを支える大きな力になることを確認してきました。今後もこの視点を大切にしながら、授業づくり・カリキュラムづくりに取り組んでいくことが重要です。

こうした中、本研究大会を「新たな時代を豊かに生きる力の育成～学び続ける姿を目指した効果的なICTの活用～」を研究主題として開催できますことは、今日の学校教育の課題解決に迫るものであり、誠に意義深いことであると考えております。本研究会が、これからの視聴覚教育のあり方について、皆さまとともに知恵を出し合い、新たな可能性を見つけていく場になることを心より願っております。

最後になりましたが、本研究大会の開催にあたり、多大なる御指導・御支援をいただきました、広島県教育委員会、福山市教育委員会の皆様、御講演いただきます東京学芸大学大学院 准教授 登本 洋子 様をはじめ、関係機関・団体、関係者の皆様、研究大会の開催に御尽力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。御挨拶といたします。

御挨拶

第72回広島県中学校視聴覚教育研究大会
福山大会現地実行委員会委員長 永久進一
(福山市立精華中学校長)

古くから潮待ちの港として栄えた「鞆の浦」、戦後復興のシンボルである「ばら」など、歴史と文化の都市である福山市において、県内各地から多くの先生方にお集まりいただき、第72回広島県中学校視聴覚教育研究大会福山大会を開催できますことに心から感謝を申し上げます。

福山市では、ふるさとに愛着と誇りをもち変化の激しい社会をたくましく生きるこどもを育てるために、各校で知的好奇心や意欲を発揮し、分かる過程を通してこどもたちが「学びが面白い!」と実感する「こども主体の学び」づくりに取り組んでいます。その中で、こどもたちは一人一台の学習端末を日常的に活用することにより、教科の本質に迫ったり、個に応じた学習を進めたり、様々な情報を収集して考えをまとめそれら进行交流したりするなど、多様な学習形態に応じて学びを深めています。学習端末が日常的に使われるようになった今、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に推進し、充実・発展させるために ICT 活用の在り方もこれまで以上に柔軟で創造的なものが求められています。

本日は、福山市立城東中学校を会場に、「新たな時代を豊かに生きる力の育成～学び続ける姿を目指した効果的な ICT の活用～」を研究主題に、9 教科による授業公開、研究発表を行います。城東中学校は、令和 6 年度に福山市教育委員会学びの探究パイロット校事業「効果的な ICT 活用実践研究校」として、教材研究による ICT 活用の目的・場面・方法を明確にした授業づくりに組織的に取り組んでこられました。公開授業および研究発表では、その取組の一端をご覧いただけるものと考えております。

また、実践報告では、江田島市立大柿中学校、三原市立大和中学校のこの 2 年間の真摯な取組について報告をしていただき、成果を共有するとともに各学校での実践の参考にしていただければ幸いです。

終わりにになりましたが、本大会に向けてのご指導や本日のご講演をいただきます東京学芸大学大学院准教授 登本洋子先生をはじめ、ご支援をいただきました広島県教育委員会、福山市教育委員会の皆様に厚くお礼を申し上げます。

また、今日まで熱心に授業研究に取り組んでこられた福山市立城東中学校の藤井規光校長先生をはじめ、教職員の皆様、大会運営にご尽力いただいた関係者の皆様に深く感謝を申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

祝辞

福山市教育委員会
教育長 小林巧平

県内各地から、皆様方をお迎えし、第72回広島県中学校視聴覚教育研究大会が盛大に開催されますことをお喜び申し上げますとともに、皆様方を心から歓迎いたします。ようこそ「ばらのまち福山」にお越しくださいました。

中央教育審議会に取りまとめられた「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」（令和3年1月26日）では、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現するために、学校教育の基盤的なツールとして、ICTは必要不可欠なものである。」と明記されています。また、同文にて、「これまでの実践とICTとを最適に組み合わせること、これからの学校教育を大きく変化させ、様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげていくことが必要である。」としています。

本市では、すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現をめざしています。その中で、学習端末の汎用的・効果的な活用を通して、一人一人の興味や関心、理解度に応じた「個別最適な学び」と、対話を通してよりよい学びを生み出す「協働的な学び」を一体的に充実させ、教科等の資質・能力や情報活用能力を育成するために、カリキュラムの見直しや授業改善を行っているところです。

本大会では、研究主題を「『新たな時代を豊かに生きる力の育成』～学び続ける姿を目指した効果的なICTの活用～」とし、資質・能力の育成に向けたICTの効果的な活用の在り方について、公開授業、実践提案があります。協議では、忌憚のないご意見をいただき、議論を深め、視聴覚教育のさらなる推進につなげていただきますよう、お願いいたします。

終わりに、本大会の開催にあたり、ご指導とご支援を賜りました広島県教育委員会および関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、広島県中学校教育研究会視聴覚教育部会の益々のご発展と、皆様の今後のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

I 大会要項

日程

12:10	12:30	13:20	13:30	13:50	14:00	14:15	14:35	15:05	15:30	16:30	16:40
受付	公開授業	移動	研究協議	移動	開会行事	研究報告	実践報告	講評	演 講	閉会行事	

公開授業 12:30～13:20

学年組	教科	単元名	授業者	授業会場	協議会場
11R	国語	筋道を立てて根拠を明確にして書こう	山治茉理奈	11R教室	11R教室
21R	社会	地理的分野 日本の諸地域「関東地方」	河内 優作	21R教室	21R教室
22R	数学	平行と合同 角の大きさの求め方	深野 優	22R教室	22R教室
23R	理科	天気の変化と大気動き	大橋 舞人	第二理科室	第二理科室
31R	音楽	局の特徴を感じとりながら、音楽を味わおう 組曲「展覧会の絵」	出射 直子	音楽室	音楽室
32R	美術	心を動かすアニメーション	藤井 彩乃	美術室	美術室
34R	保健体育	球技 ネット型「バレーボール」	山下 祐子	体育館	34R教室
12R	技術	材料と加工の技術による問題解決 製作計画を立てて製作しよう	原 颯汰	木工室	木工室
24R	英語	Unit5 How Do We Stay Safe?	池岡 真美	24R教室	24R教室

研究協議 13:30～13:50

開会行事 14:00～14:15

研究報告 14:15~14:35

福山市立城東中学校 研究主任 深野 優

実践報告 14:35~15:05

「主体的な学びに向かう ICT の効果的な活用法」

江田島市立大柿中学校 教諭 開内 康文

「個別最適な学び・協働的な学び × ICT」

三原市立大和中学校 教諭 岡本 克哉

講評 15:05~15:30

広島県教育委員会 義務教育指導課 指導主事 有田 貴信 様

講演 15:30~16:30

演題 「主体的に学習する生徒を育むための授業改善と教育 DX」

講師 東京学芸大学大学院 准教授 登本 洋子 様

閉会行事 16:30~16:40

2 開会行事

◇開会の辞

◇挨拶

広島県中学校教育研究会視聴覚教育部会 部会長 中本 和彦

◇来賓祝辞

広島県教育委員会 義務教育指導課	教育指導監 小池 紘太郎 様
福山市教育委員会	教 育 長 小林 巧平 様

◇講師・来賓紹介

東京学芸大学大学院	准 教 授 登本 洋子 様
広島県教育委員会義務教育指導課	教育指導監 小池紘太郎 様
福山市教育委員会	教 育 長 小林 功平 様
広島県教育委員会義務教育指導課	指 導 主 事 有田 貴信 様
公益財団法人広島県教育振興会	理 事 佐藤 泰伸 様
公益財団法人日本教育公務員弘済会 広島支部	参 事 河村 啓司 様
福山市教育委員会学校教育部	部 長 笹尾 孝治 様
福山市教育委員会学校教育部	参 与 寺田 拓真 様

《挨拶》

広島県中学校教育研究会視聴覚教育部会 部会長 中本 和彦

《祝辞》

広島県教育委員会 義務教育指導課 教育指導監 小池 紘太郎 様

《祝辞》

福山市教育委員会 教育長 小林 巧平 様

3 令和7年度広島県中学校教育研究会視聴覚教育部会研究計画

1 研究主題

新たな時代を豊かに生きる力の育成

～ ICTの効果的な活用を通して ～

2 重点課題

- (1) 子供たちの学びを支援するとともに、多様なメディアを自ら活用できる主体的・創造的な人間の育成をめざす視聴覚教育の実践。
- (2) 番組（動画コンテンツを含む）から情報を主体的に受けとめ、課題解決に向け協働的に学ぶことのできる放送教育の実践。

3 研究主題のめざすもの

令和3年度より全面実施された学習指導要領では、知識・理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」に向け、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、全ての教科等において、

- ① 知識及び技能が習得されるようにすること。
- ② 思考力、判断力、表現力等を育成すること。
- ③ 学びに向かう力、人間性等を涵養すること。

の3点を偏りなく実現できるようにすることが求められている。また、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成では、「生徒の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）、問題発見・解決能力等の学習の基礎となる資質・能力を育成していくことができるように、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。」とし、情報活用能力を学習の基礎となる資質・能力として位置付けている。

平成23年4月に出された「教育の情報化ビジョン～21世紀にふさわしい学びと学校の創造を目指して～」では、教育の情報化が果たす役割として、「子どもたちの学習や生活の主要な場である学校において、教育の情報化を推進し、教員がその役割を十分に果たした上で、情報通信技術を活用し、その特長を生かすことによって、一斉指導による学び（一斉学習）に加え、子どもたち一人一人の能力や特性に応じた学び（個別学習）、子どもたち同士が教え合い学び合う協働的な学び（協働学習）を推進していくことができる。」ことが示されている。

これまでの本部会の研究成果を概観したとき、コンピュータなどの情報手段を活用したり、ICTの組合せ方を工夫したりすることで、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、学習意欲も高めてきた。また、資料提示を工夫することで思考力や判断力を伸ばすなど、効果的な学習活動の展開に有効であることが確かめられ、ICTの効果的な利用方法が確立されてきた。さらには、必要な情報を取捨選択して正しく受けとめ活用する力や、調べ学習や体験などから学んだことを多様なメディアを利用し表現するなどといった、情報を主体的に受けとめ活用するための能力（情報活用能力）の育成につ

いても一定の成果を上げることができた。これまでに積み重ねてきた成果は、より積極的な主体性を育て、基礎・基本をより確実に定着させる方法として、また、情報を主体的に受け止め、創造性を発揮する、真に「生きる力」を備えた人間を育成する方法として、有効に機能することを明らかにしている。

21世紀は「新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会」（知識基盤社会）と言われており、文部科学省も全国の学校で義務教育を受ける児童生徒に、1人1台の学習者用PCやクラウド活用を前提とした高速ネットワーク環境などを整備する5年間の計画（GIGAスクール構想）を打ち出し、この数年間で機器の整備は急速に進んでいる。

生徒にこれからの社会を生き抜く力を育むためには、一人一人の子供たちの多様性を尊重しつつ、それぞれの強みを発揮させる個に応じた教育を行うとともに、異なる背景や多様な能力をもつ子供たちが協働して、新たな価値を生み出す教育を行うことが重要である。その実現に向けて、機器の整備と同様にICTを効果的に活用した教育の充実が期待されている。

平成26年12月に広島県教育委員会より出された「広島版『学びの変革』アクション・プラン」では、これから求められる資質・能力として、「自ら深く考え、それを統合して新しい答えを創り出す力」、「他者と協働・協調できる力」、「学びつづける力」の3点があげられている。ICTを効果的に用いることで、知識の確実な獲得と、知識や経験を結びつけて新たな知識を生み出していくことはこれまでの本部会の研究でも明らかとなっており、今後も継続的に研究と実践を重ね、生徒一人一人の豊かな学びを保障していきたい。

4 研究の内容

（1）ICT機器等の活用と授業実践

- ① ICTの特性を生かした、各教科における「基礎・基本」の定着と思考力・判断力・表現力等の育成に向けた授業展開の工夫。
- ② コンピュータ活用の実践とコンピュータ・リテラシー、「情報社会で適正な活動を行うための元になる考え方と態度」（情報モラル）の育成。
- ③ 各種学力調査における成果と課題の分析を生かした授業改善。

（2）放送教育の実践研究

- ④ 番組活用の多様化とメディア複合の工夫。
- ⑤ 学級活動や道徳の時間での放送番組の活用。
- ⑥ 視聴能力を高めるとともに、クラス内対話の活性化を図り、課題発見とその解決に向けた主体的、創造的な発展学習の在り方の研究と授業展開の工夫。

5 その他

放送コンテストの実施

本部会では、情報化社会に生きる中学生の、情報発信能力や豊かな人間性の育成をめざし、放送コンテストを年1回実施する。なお、この放送コンテストは「NHK杯全国中学校放送コンテスト」の広島県予選を兼ねるものとする。

4 研究報告 福山市立城東中学校



Ⅰ 研究構想図

授業を通じた生徒の居場所づくり

新たな時代を豊かに生きる力の育成
～学び続ける姿を目指した効果的な ICT の活用～

一人一台端末やクラウド環境を前提とした授業改善

情報技術パラダイムをモデルとした授業環境の構築 ○主に Google 共有ドライブとスプレッドシートを活用し、情報技術パラダイムの環境を構築。	端末活用と授業改善を一体的に取り組む ○生徒が一人一台端末を活用して情報を得たり、情報を整理・比較したりし、必要に応じて他者と協働しながら課題を解決したり自分の考えを形成したりする学習活動を構想。	各教員の授業観と主体的な学びを支える学び方を生徒と共有 ○各教員の授業観をスライドで共有 ○考えるための技法を教員及び生徒と共有
---	--	---

教員のデジタルスキル

校務での活用によって
スキルアップ

生徒のデジタルスキル

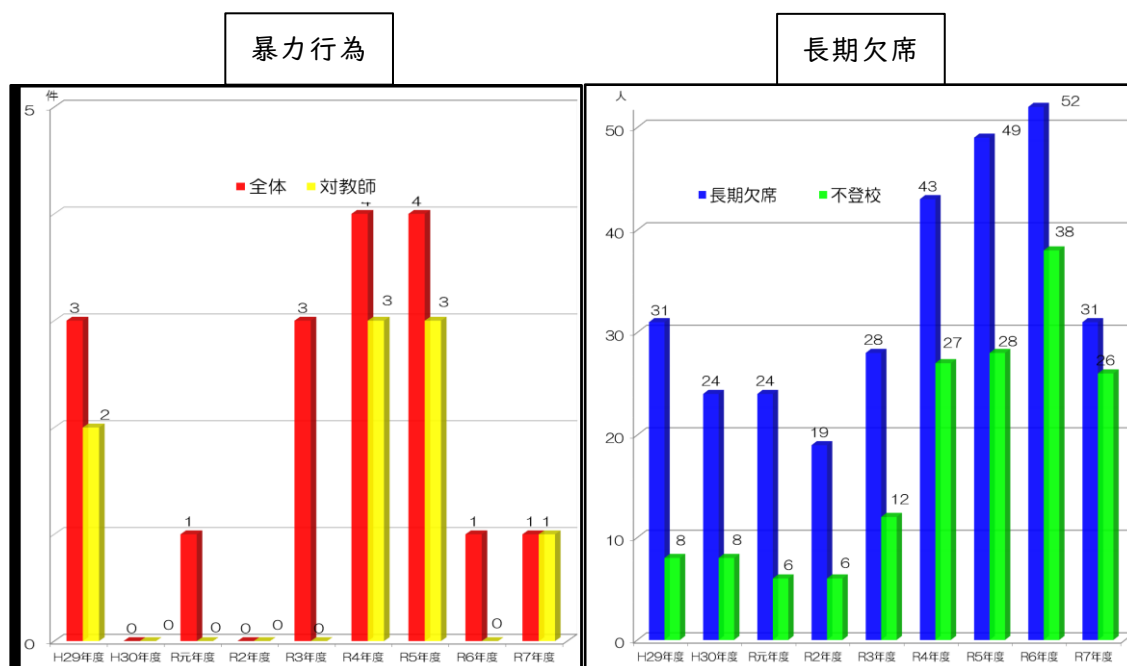
HR や部活など教科の授業外での活用も通してスキルアップ

2 研究主題

新たな時代を豊かに生きる力の育成

～**学び続ける姿**を目指した効果的な ICT の活用～

3 主題設定の理由



近年、暴力行為数、長期欠席者数が増加傾向にあった。以下は、令和 5 年度の授業アンケートの結果である。

授業では自ら学ぼうとしている	授業で考えることが面白い
84.7%	75.9%

これらの課題を踏まえ、「授業を通じた生徒の居場所づくり」が必要であった。このことを達成するためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が重要であり、生徒を誰一人取り残すことのないという視点も踏まえると、一人一台端末やクラウド環境の活用を前提とした授業改善を行うことが重要であると考えた。そこで、研究主題を「新たな時代を豊かに生きる力の育成～学び続ける姿を目指した効果的な ICT の活用～」と設定し、生徒が真に、「授業が楽しい」「授業がわかる」「自ら学びたい」と思える授業の研究を進めることとした。

4 研究の取組

○教員及び生徒のデジタルスキルの向上

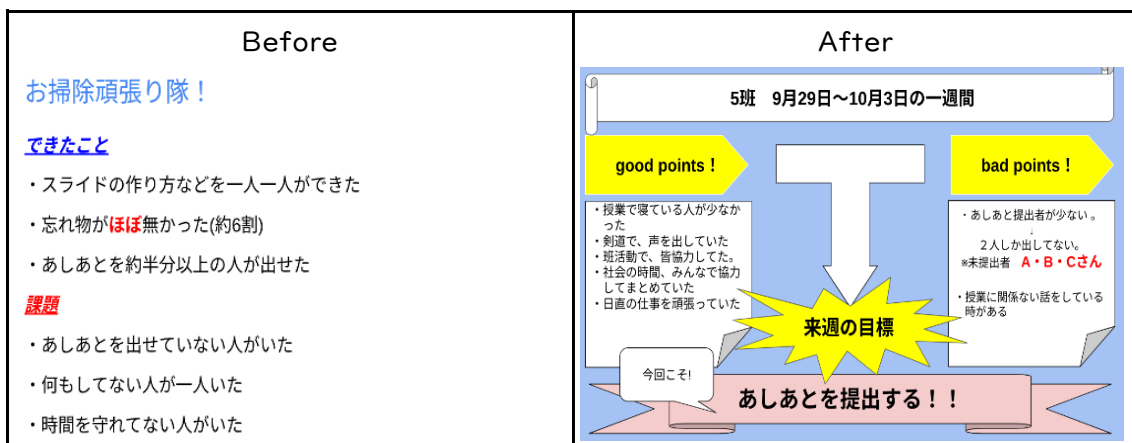
一人一台端末やクラウド環境を前提とした授業改善を行っていくためには、教員及び生徒に、一定のデジタルスキルが身に付いている必要がある。教員のデジタルスキルは、スキルアップに特化した研修を1回行ったとしてもデジタルスキルは定着しにくいと考え、校務のデジタル化を通してスキルアップを図ることとした。また、生徒のデジタルスキルは授業中に操作を教えながら授業を行うと、授業のめあて達成に向けて確保したい学習時間を圧迫してしまうため、短学活や部活など教科の授業外での活用も通して、スキルアップを図ることとした。

<教員>

校務では、共有ドライブを中心に、職朝や学年会でも GoogleWorkspace を使い、情報共有を行った。

教科の授業外では、時間割や教科反省で共有ドライブやスプレッドシートを活用している。時間割は各学級のクラスルームに入り、日付を選択することで時間割が変更される。教科反省は、教科係が評価や連絡事項を入力し、午後学活で教室のテレビに映し出すことで生徒に共有する。他にも文化祭の合唱練習の練習計画を生徒が考え、教職員と共有したり、部活動の出欠席、練習メニューや練習の振り返りを教員と共有したりすることで、学校行事や部活動がスムーズに行われた。

[illegible]14



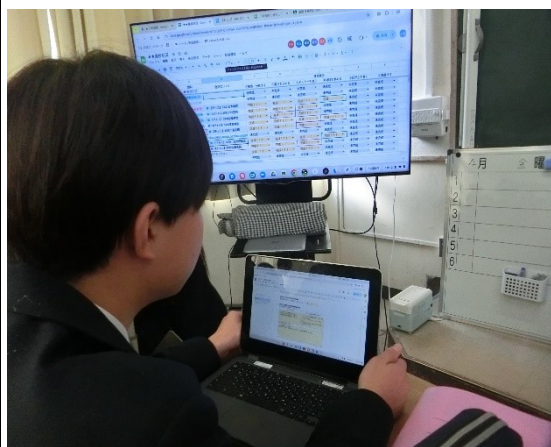
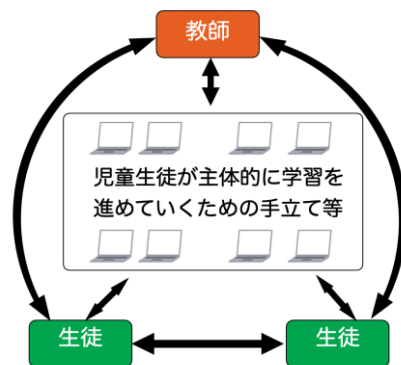
各班がまとめた班反省のスライドでは、取組を始めた当初は、良かったこと、ダメだったことをただ「事実」として羅列していた。しかし、取組を続けることにより「事実」から班として「考え」を形成し、そのことをスライドを通じて表現する班も現れ、デジタルスキルの向上だけでなく、デジタルスキルを発揮しながら、自分たちの「考え」を形成する力も身に付いてきたと考える。

○一人一台端末やクラウド環境の活用を前提とした授業改善

<情報技術パラダイムをモデルとした授業環境の構築>

一人一台端末とクラウド環境を活用して、情報技術パラダイムをモデルとした授業環境の構築に取り組んだ。この授業環境のイメージは、右記の通りである。

これは文部科学省「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会」の資料を参考にしている。一人一台端末やクラウド環境を活用し、右記のような環境を授業において構築し、この図の中央部分でどのような情報を共有すれば、「生徒が自分の力で主体的に学習を進めていくことができるか」について、各教科で研究をした。この環境の構築においても、主に GoogleWorkspace を活用した。また、この環境をより 効果的に機能させるためには、教員の授業づくりそのものを変化させていく必要があると考え、一人一台端末の活用と授業改善を一体的に進めていくことの重要性を、教員全員で共通理解した。



国語科



音楽科

＜端末活用と授業改善を一体的に取り組む＞

情報技術パラダイムの環境を生かした授業改善として、「生徒が一人一台端末を活用して情報を得たり、情報を整理・比較したりし、必要に応じて他者と協働しながら課題を解決したり自分の考えを形成したりする」学習活動の研究を行った。

・授業構想シートを全教職員がドキュメントで作成

授業のポイント

- ボスター（各3議題）を観察・分析し、対象にとって重要だと思うことを観点として設定でき、その観点からボスターを構築できる。
- 観念を「図」で表すのではなく、対象となるものの観点に基づき、観念群の集合として設定をできる。
- 互いの批評文を整理・評価することで、表現のよさや分かりやすさ比べを文書間につなげる。

つづけたい

観念のしきたりや資料を適切に引用したりするなど、自分や考えが分りやすく伝わる文書になるように工夫する力。

ICT活用

場面	①意見交換をする場面での活用 ②内容及び構成の検討、推察に際する場面での活用 ③運動の振り返りを行う学習場面での活用
ソフト等	Google workspace（共有ドライブ、ドキュメント、スプレッドシート）、FigJam、ロロロト
ポイント	- Google共有ドライブフォルダ内に資料を一括入れておくことで、生徒の進度によって課題に取り組むことができる。 - 最終発表をGoogleスプレッドシートにて共有することで、効果的な学び合い学習につなげることができる。

授業展開例

単元のゴール「ボスターコンクールの審査員になったつづきで、ボスターを整理する」

①対象を観察・分析する様子

②批評の対象を観察・分析した後に、対象にとって重要だと思うことを考え、ボスターを決定する。

③集めた材料をもとに、読者のある批評文を書く。

④書いた文を読み返し、文全体を整える

⑤互いに推察し合い、消費をする

⑥書いた批評文を互いに読み合い、評価する。

共有ドライブ内に資料を入れる

授業のポイント

問題を比例や反比例を利用して解決することができる。

つづけたい

比例反比例を元と考え、問題解決する力

ICT活用

場面	①授業進行 ②作成 ③提出 ④振り返り
ソフト等	パワーポイント スプレッドシート ドキュメント GeoGebra Classroom
ポイント	①板書を短時間で、所要を抑えながら授業進行ができる ②自動的に提示ができるため、イメージしやすい ③振り返りが一貫化され、単元を通して振り返りができる

復習・導入

使い方

課題

課題の提示

振り返り
スプレッドシート

内容走着のため、テンプレート
既習事項を振り返り復習

端末活用を授業のどの場面で行うのかを中心に示し、研究授業の際は、このドキュメントを用いてチームで授業検討を行った。その中で、より良い端末の活用方法はないか、生徒のつきたい力をつけるための授業になっているかなどを検討後、学習指導案の作成、さらにその学習指導案の検討をするなど、一つの研究授業に対しての検討を入念にチームで行った。

・1学期の授業の振り返りを全教職員スライド1枚で作成

英語科 池岡



友達の進捗状況確認しながら！
★何をすればいいのかわかるのを見れば（開けば）いいのかわかる！

実際のメールのやり取りに近い形！
返信（コメント）あり！

課題！
★学びつづける。
★振り返りの内容や単元をしっかりとてきない
★生徒をつなぐ声掛けや仕組みをもっと！

国語科 小町

創作短歌をフォームで集める↓

城東中青春短歌大賞2025				提出はこちらから
番号	名前	1つ目	2つ目	フォーム
1		できた	できた	送信済
2		作成中	作成中	
3		🔥	🇯🇵 日本万歳	送信済
4		できた	作成中	送信済
5		作成中	できた	
6		作成中	作成中	
7		できた	できた	

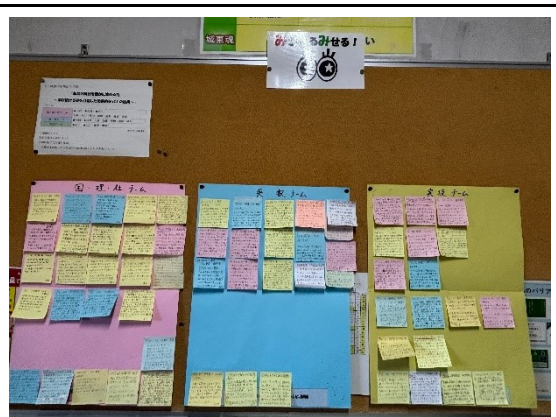
自然と交流したり合作したり、学び合いになった気がします。

それぞれが「一人一台端末やクラウドをどう活用したか」「どんな成果や課題があったか」をスライドにまとめ、発表を行った。校内研修を通じて、他教科や他の先生の工夫を知り、次の学期に生かすヒントを得ることができた。また、共通する課題を見つけたことで「自分だけではない」と共感し、解決策を全体で考える場ともなった。

・学力調査の分析結果から生徒の学習状況を把握し、学力向上に向けた具体的な提案を教職員全体で共有

3.分析 (各問題) <table border="1"> <thead> <tr> <th>◎全国平均を上回った問題 (6問)</th> <th>▲全国平均を下回った問題 (8問)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ・伝えたいことを明確にする ・文章の構成や展開を考える ・表現を工夫する ・根拠を明確にして考える ・語彙について理解する </td> <td> ・文前に即した漢字を選ぶ ・根拠を明確にして書く ・発言の意図について考える ・論理の展開を考える ・資料を用いて考えを伝える ・登場人物の設定について捉える ・読み手を意識して文章を整える ・読み手を意識して語句の用法、叙述を確かめる </td> </tr> </tbody> </table> ★表現問題 (短答・記述) に課題がある	◎全国平均を上回った問題 (6問)	▲全国平均を下回った問題 (8問)	・伝えたいことを明確にする ・文章の構成や展開を考える ・表現を工夫する ・根拠を明確にして考える ・語彙について理解する	・文前に即した漢字を選ぶ ・根拠を明確にして書く ・発言の意図について考える ・論理の展開を考える ・資料を用いて考えを伝える ・登場人物の設定について捉える ・読み手を意識して文章を整える ・読み手を意識して語句の用法、叙述を確かめる	4.分析を受けて3年生としての今後の方策 ○話す・聞く、読むこと、書くことの授業で毎時間の振り返りを行う ①わかったこと (事実) ②考えたこと の2点を書かせる →自分の考えを文章に書く練習を習慣化 ○授業の中で作文課題を出す 短文 (振り返り) だけでなく、長文を書く機会も設ける →正しい日本語の使い方、表現の仕方を身に付けさせたい
◎全国平均を上回った問題 (6問)	▲全国平均を下回った問題 (8問)				
・伝えたいことを明確にする ・文章の構成や展開を考える ・表現を工夫する ・根拠を明確にして考える ・語彙について理解する	・文前に即した漢字を選ぶ ・根拠を明確にして書く ・発言の意図について考える ・論理の展開を考える ・資料を用いて考えを伝える ・登場人物の設定について捉える ・読み手を意識して文章を整える ・読み手を意識して語句の用法、叙述を確かめる				

・学期に1回3週間の「みる・みる・みせる週間」



研究主題の「生徒に学び続ける姿があったか。」という視点をもとに、互いの授業を参観し合い、その後はメッセージ掲示板でフィードバックし交流した。授業を直接見せ合うことで、学校全体で授業の方向性を確認でき、チームとして取り組む雰囲気生まれ、自分の授業づくりにも力が入った。

これらの取組を通して、端末活用と授業改善を一体的に進めた。情報技術パラダイムの環境を構築するとともに、その環境を生かした学習活動を構想することにより、城東中学校の教員の授業観は「教師が必要な知識を一方的に教える」から「授業を通して自立した学習者を育成する」という授業観へと変容した。

<各教員の授業観と主体的な学びを支える学び方の共有>

・各教員が目指す授業をスライド1枚に

河内が目指す授業!

「あれ?これ授業で聞いたことあるやつじゃね!？」

つまり、社会科の授業は身近なもの!!

知識を身に付ける
→小テスト
単元テスト

文章で表現
→毎授業での振り返り

自分事と捉える
→パフォーマンス課題

＊国語の授業＊

「自分の思いを言葉に!磨け表現力!」

2学期の目標:「たくさん書こう!伝わる言葉!」

○振り返り「事実」と「考え」

ステップ1:わかったこと (事実)

ステップ2:考えたこと、感じたこと (考え)

○作文 考えや思いを文章に

授業で考えたこと、感じたことを自分の言葉で表現!

3学年 国語科 合田清香

教員の授業観を教員だけで共有するのではなく、生徒とも共有することとした。この取組を通して、教員一人一人も、各教科の本質を踏まえ自分がどのような授業を目指していきたいのかを明確にした。このスライドは、教員だけで共有するのではなく、生徒とも共有をするために、1階玄関にモニターを設置し提示した。生徒が休み時間中にモニター前で立ち止まり、城東中の全教員が作成したスライドを見いている姿もよく見られる。

・10の考え方の共有

～【10の考え方】を使って発表しよう～

① 順序付け (まず～～、そして～～)

- 「まず...をして、次に...をして、そして...しよう。」
- 「〇〇の一日の流れを紹介します。朝は...昼は...夜は...です。」

② 比較 (～注目して比べると)

- 「AとBを●●に注目して比べると、Aは〇〇で、Bは〇〇です。」
- 「〇〇と△△を■に注目して比べてみました。共通点は...相違点は...です。」



授業において、生徒が課題解決に向けどのように考えるかを明確にするために、学習指導要領解説、総合的な学習の時間編に掲載されている「考えるための技法」を参考に、生徒が主体的に学習をしていくために必要な手立て等を考えている。このことについても解説に書かれている10個の考えを、生徒が理解できる言葉に落とし込み共有した。

5 成果・課題

<成果>

授業では自ら学ぼうとしている	授業で考えることが面白い
(R5 84.7%⇒) 91.3%	(R5 75.9%⇒) 83.7%

生徒アンケートは、令和5年度からこのように変容している。特に、「授業では自ら学ぼうとしている」を肯定的に答えた生徒は、6つの教科で90%を超え、「授業で考えることが面白い」と解答した生徒は、7つの教科で80%を超えた。学校全体で授業改善に取り組んだ成果だといえる。以下は、本校での端末の使い方についての生徒の感想である。

- ・資料の共有はいつでも見たいときに見れるし、紙と違ってなくすことがないので良い。
- ・多くの人数で作業できたり、単元マップでそれぞれの単元での内容が見れると同時に、他の人がどう思ったかなど振り返りを見れるのも良い。
- ・自分と同じ意見、違う意見の人の考え方がわかって比較がすぐできることが良い。
- ・進捗状況の確認は、自分のモチベーションにつながる。

クラウド環境を様々な方法で活用した授業づくりは、生徒にとっても、肯定的に受け取っていることが分かった。さらに、「情報技術パラダイムを活用し、自分たちで授業を進めていく活動につ

いてどう思うか」という生徒アンケートでは、肯定的な評価は 92.3%であった。以下は生徒の感想である。

- ・先生に言われたことをただやるよりは、自分たちで考える力をつけたりできるからいい。
- ・自分で進めると毎授業印象に残って忘れない。
- ・自分の力で授業を進めることによって、自分たちがやったことの成果が実感できる。
- ・自分たちで学習を進めていくと、こういう方法もあるんだと新たな方法に気づくので良いです。

また、以下は、本校の教職員の感想である。

- ・教職員の温度感の向上が最大の成果です。
- ・個別最適な学びと協働的な学びに向かう土台の授業づくりや単元構想を考えることがたくさんできてよかったと感じます。
- ・ICT を活用しての授業については、授業実践を重ねていくうちに少しずつ改良していくことができ、自分自身も楽しみながら授業づくりをすることができるようになった。
- ・今までは ICT を活用したつもりの授業しかしてこなかったが、具体的な活用方法を学んだことで生徒にとって効果的と思える授業をすることができた。
- ・教科としての本質的な部分は変えず、より効果的な学習方法を考えることができた。

<課題>

端末の具体的な活用を学び、教職員の意欲が高まる中で、生徒に効果的な授業づくりの土台を築けたと感じている。しかし、単元を見通した計画や柔軟な仕組みづくりの必要性を感じる一方で、端末活用が授業で十分生かしきれず、ツールが増えて煩雑になる場面があったことが課題としてあげられた。

- ・ひとまとまりの単元を見通した計画の立て方の重要性を痛感した。
- ・状況に応じて仕組みづくりをしていかなければならないと実感しました。
- ・スプレッドシートなど、毎時の授業で自分が活かすことが難しい時もあった。
- ・様々なアイテムを取り入れることにより、煩雑になってしまう場面もあった。

生徒が主体的に授業を進める活動については 9 割以上が肯定的であったが、一部の生徒の意見は以下の通りである。

- ・単元や前回の授業とのつながりが分かりにくい。
- ・先生の説明がほしい。

以上のことから、生徒実態を細かく見取り、丁寧な個別の支援が必要である。また「授業で考えることが面白い」とさらに生徒が感じるためには、生徒が「わかる」「できる」を実感し、それがテストや調査での成果につながることを、学ぶ面白さにつながると考える。これらを踏まえ、城東中学校では今後も、生徒一人ひとりの居場所を大切に、誰一人取り残さないことや、授業者が各教科等の資質・能力を踏まえ、その時間で付けたい力は何かをもって授業づくりを行っている。

5 公開授業 学習指導案



1 日 時 令和7年10月29日(水)4校時

2 学年・組 1年1組

3 単元名(題材名) 5 筋道を立てて「根拠を明確にして書こう」

4 単元(題材)について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領、第1学年の「B書くこと」(1)ウ「根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。」及び、「C読むこと」(1)エ「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。」に示された資質・能力を育成することを目指す。関連する[知識及び技能]として、(2)ア「原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。」及びイ「比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。」を位置付ける。

なお、本単元は「B書くこと」(1)ウに示された資質・能力の育成に重点を置くこととし、その達成に向け、仮説検証型の説明的文章である「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」を用いて、「C読むこと」(1)エについても触れることとする。

本教材は、資料を引用しながら根拠を明確にしてレポートを書くものである。レポートとは、課題に対して仮説を立て、調査して明らかになった内容などについて、客観的な事実を示しつつ、情報を整理して伝える文章のことである。レポートを書く活動を通して、文章を友達と共有し、根拠の明確さなどについて助言し合うことで、自分の考えがより伝わるように改善できる教材である。

さらに、授業の前半では、仮説検証型の説明的文章である「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」を学習する。本文章は、大きく「前提となる知識」「筆者が立てた仮説」「仮説の検証1」「仮説の検証2」「結論」の五つの部分で構成されている。実験・観察によって得た事実を基に、仮説の妥当性を主張するという論の展開に特徴があり、筆者の主張に説得力を持たせている。意見に説得力を持たせるために、文章の構成や論の展開など、どのような工夫がされているのかを考えることで、後半のレポート作成に役立たせたい。

(2) 生徒観

以下は、本学級の1学期授業アンケート(国語)の結果である。

	授業アンケート項目	肯定的評価
①	授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみたい」と思う。	82.4%
②	授業で学習した内容について、分かった点、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。	82.3%
③	学習端末(chromebook)を使用することで、学習活動がスムーズに行えたり、理解が深まったりしている。	97.0%

①と②について、肯定的評価が80%を超えており、国語の授業において、解決しようとする課題について、意欲的に取り組むことができる生徒が多く、また、学習した内容について振り返り、次の学習につなげることが概ねできていることが分かる。さらに、③については、肯定的評価が97.0%であり、学習端末を使用しての授業に意義を感じている生徒がほとんどであることが分かる。一方で、各単元の記述内容を見ると、自分の考えを支える根拠が明確になっておらず、自分の思いや考えを繰り返し書いてしまう等、理解の深まりが適切に表現されていない状況も見られる。資質・能力の獲得に向けた学習端末の効果的な使用については、課題が見

られる。

また、以下は、本学級の福山市学力定着状況調査【文章を書く問題】の結果である。

	正答条件	出題のねらい	本学級	全国	差
①	7行～9行で、伝えたいことを明確にして書く。	目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にしている。	42.9%	65.0%	-22.1
②	2段落構成で書く。	文章全体の構成や展開を考えている。	37.1%	56.3%	-19.2
③	資料から読み取ったことを書く。	目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように工夫している。	45.7%	65.6%	-19.9
④	自然体験活動に参加する中学生を増やすためには、どのような取り組みを行うとよいと思うか、自分の考えと、その理由を書く。		28.6%	45.5%	-16.9

本学級の平均正答率は、どの項目についても50%を下回っている。特に④については35人中10人しか正解しておらず、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように工夫することが苦手な生徒が多い。④の解答類型を見ると、「自分の考えは書いているが、理由を書いていない」生徒の割合が11.4%(4人)、「自分の考えや理由を書いていないが、別のことを書いている」生徒の割合が20.0%(5人)おり、問われている問題を正確に読み取れていない生徒や問われていることが分かっていない生徒がいることが分かる。また、【文章を書く問題】について無回答の生徒が14人と、全体の40.0%を占めており、書くこと自体にも課題があるといえる。

(3) 指導観

単元観及び生徒観を基に、指導については次の2点に留意する。

- ① 本単元において育成する力と、本学年生徒の実態を考え、言語活動を「調べて考えを深めよう～レポートで探る言葉の力～」と設定する。レポート作成に当たっては、構成の中でも、特に「調査の結果」と「考察」について根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫させる。
レポートのテーマを検討する際には、生徒が興味・関心を働かせ、日常生活の中から問題意識をもって設定できるよう、言葉についてのテーマを一覧にして整理した「手引き」も用意する。また、生徒が見通しをもってレポート作成ができるような「手引き」を用意する。その際、「調査の結果」については、グラフや表などの統計資料の例を用意し、自分のテーマに合った資料を活用できるようにする。「考察」については、例えば過去と現在の活用法や自分と他の意見を比較するといった、書き方やまとめるポイントを提示する。
- ② ICT機器の活用として、Google 共有ドライブを使用する。Google 共有ドライブのフォルダ内には、生徒の個人フォルダを準備し、授業の資料を一式入れておく。また、レポート作成については Google ドキュメントを使用する。コメント機能にて自分のレポートの工夫点を説明させたり、仲間のレポートに助言を書き込ませたりしながら、効果的に活用していきたい。

5 単元(題材)の目標

- (1) 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。

〔知識及び技能〕(2)ア

- (2) 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。

〔知識及び技能〕(2)イ

- (3) 根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ

(4) 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ

(5) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

6 単元(教材)の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) ②比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ)	①「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) ②「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ)	①粘り強く根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫し、学習の見通しをもってレポートを書こうとしている。

7 指導と評価の計画(7時間)

次	時	主な学習活動(○)・手立て(●)・ICT(★)	知	思	態	評価方法等
1	1	○学習用語について理解する ○単元のゴールを確認する ●「分かりやすいレポートの書き方」について考える。	②			観察
2	2	○「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」を通読し、構成と内容を捉える ●段落を役割ごとに分類しながら、文章の構成と内容を捉える。 ★Google ドキュメントで文章の構成と内容をまとめられるようにする。	①			Google ドキュメント
	3	○文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える ●筆者の「検証の結果」や「考察」のまとめ方の特徴を捉え、今後のレポート作成の参考にする。 ★Google ドキュメントで筆者の文章の構成についての特徴をまとめる。		②		Google ドキュメント
3	4・5 【本時】 6	○レポートのテーマを設定し、作成する ●「言葉」に関するテーマを自分で設定する。 ●「調査の目的ときっかけ」と「調査の方法」については型を用意しておき、「調査の結果」と「考察」を中心に考えられるようにする。 ★Google ドキュメントでレポートを作成する。 ★Google スプレッドシートで進捗状況を把握する。 ★Google ドキュメントのコメント機能を活用し、自分のレポートの工夫を書く。	②		①	Google ドキュメント 観察

	7	○レポートの交流会を通して、分かりやすいレポートの書き方について考える ●これまでの学習を振り返り、「分かりやすいレポートの書き方」について自分の言葉でまとめられるようにする。 ★Google スプレッドシートに「分かりやすいレポートの書き方」についてまとめる。		①		Google スプレッドシート
--	---	--	--	---	--	-----------------

8 本時の展開(5/7時間目)

学習内容	指導上の留意点	評価基準と方法
○本時のめあてを確認し、前時の活動の続きを行う。	◇前時までに、生徒はレポートテーマを設定し、「調査の方法」に従って情報を集めている。ここでは、各自の進捗・本時で取り組むことをスプレッドシート上で確認する。 ★ICT の活用場面 Google ドキュメント ・レポート作成に使用する。 ・コメント機能に、自分のレポートの工夫点を書く。 Google スプレッドシート ・レポートテーマや進捗状況を入力する。	
「調べて考えを深めよう～レポートで探る言葉の力～」というテーマで、根拠を明確にして、相手に伝わるレポートを書こう。		
○本時の振り返りと、次時の予告をする。	◇教科書やレポート作成の手引きを適宜活用させる。 ◇机間指導を行う。 ・Google スプレッドシートで生徒の進捗を確認し、行き詰っている生徒については助言を行う。 ・「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」での学習に立ち返らせ、文章の書き方の特徴を想起させる。 ◇生徒の学習状況に応じて、例えば一つの資料だけで本当に十分か、専門的な立場からの資料が引用できているか、といった「根拠の確かさ」について、実際のレポート内容を取り上げながら全体指導を行う。 ◇次回は、レポートを仕上げることを確認する。	[主体的に学習に取り組む態度]① Google ドキュメント ここでは、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫しているかを確認する。

1 日 時 2025年(令和7年)10月29日(水)5校時

2 学年・組 2年1組

3 単元名(題材名) 「日本の諸地域(関東地方)」

4 単元(題材)について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領の地理的分野、大項目「C 日本の様々な地域」中項目(3)「日本の諸地域」に位置付けられる。そして、「①自然環境」「②人口や都市・村落」「③産業」「④交通や通信」「⑤その他の事象」のそれぞれを中核とした考察の仕方を基に、「空間的相互作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動」を通して、「幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題をすること」や「①から⑤までの考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解すること」といった知識を身に付け、「それぞれ①から⑤まで扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内での結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること」といった思考力・判断力・表現力を身に付けることを目標としている。

広い日本の地域を、細かく区分しながら、中核となる視点を基に、各地域で見られる特色や課題を理解し、それらについて、「なぜ」「どうして」といった問いを自ら設定し、粘り強く探究的な活動を行っていくことで、日本の地域的な特色や地域の課題とともに事象間の関係性を理解でき、日本の国土に関する地理的認識を深め、持続可能な日本の姿を考えることができる単元である。

(2) 生徒観

内容	肯定的回答
①授業内容はよくわかる	66.6%
②授業では自ら学ぼうとしている	77.8%
③授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみたい」と思う。	66.6%

表1:授業アンケート

表1より、本学級の生徒は②「授業では自ら学ぼうとしている」生徒が77.8%と比較的多く、授業内でも積極的に発言を行う生徒が多いなど、学ぼうとする意欲が感じられる。

一方で、授業内容については①「授業内容がよくわかる」という肯定的回答が66.6%と少なく、③「解決しようとする課題について、「なぜだろう」「やってみたい」と思う」という質問についての肯定的回答も66.6%と少ない。

内容	正答率・肯定的回答
④小学校で学習した地理の用語について問う問題(10問)	平均正答数 5.27 点 平均点以下 15 人(25人中)
⑤地理の授業で学習する内容は自身の生活に活かされていると思うか。	65.4%
⑥最近見たニュースで地理的分野に関わる内容を見たかどうか。	34.6%

表2:地理基本事項確認テスト・アンケート

表2より、④「長野県や群馬県の高原では、夏でも涼しい気候を生かして野菜がたくさん作られています。

こうした野菜をまとめて何と呼ぶでしょうか」や「農作物や家畜などで異なる性質を持つ品種を掛け合わせ、より優れた品種を作り出すことを何といいますか。など」「小学校で学習した地理に関する用語を問う問題」について、平均正答数は5点である。さらに、平均点以下の生徒は半数以上と多い。また、「地理の授業で学習する内容は自身の生活に活かされていると思うか」という質問への肯定的回答は65.4%であったが、⑥「最近見たニュースで地理的分野に関わる内容を見たかどうか」という質問への回答は34.6%と少ない。

これらのことから、本学級の生徒の実態について、以下の3点が考えられる。

- ①地理的分野に関する知識の定着ができていない生徒とそうでない生徒との差が大きい。
- ②実生活の中で起こる事象と授業内で学習する事象が繋がっていない。
- ③授業内で考える学習課題について、自分事として捉えることができていない。

(3) 指導観

指導に当たっては、生徒の実態をふまえ、以下の3点に留意しながら進めていく。

- ①基礎的・基本的な用語を精査し、要点を絞って解説を行う。

→探究活動に向けて知識量に大きく差が出ないようにプリントを用いた基礎・基本の確認を行う。

- ②各地方を①から⑤までの中核となる視点を基に、起こり得る事象を捉えさせる。

→複数の視点を関連付けることで様々な事象を多角的に捉えることができるようにする。

- ③生徒同士で探究的に活動が行えるよう、ICTを用いた情報を共有することのできる仕組みを作る。

→学習した内容や資料から読み取ったことが、一覧となってまとまったものを複数の生徒・教員とて共有できる仕組みを作っておく。

この3点に留意し、基礎・基本の学力の定着を図り、生徒自ら課題に向けて取り組むことができるような授業展開を行っていく。また、探究活動が困難な生徒に対しても、生徒同士で情報を共有する中で支援し合えるような授業展開を行ってきたい。

5 単元(題材)の目標

- (1)・幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解することができる。

・「①自然環境」「②人口や都市・村落」「③産業」「④交通や通信」「⑤その他の事象」の考察の仕方であり、取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解することができる。
(知識及び技能)

- (2)・日本の諸地域において、それぞれ「①自然環境」「②人口や都市・村落」「③産業」「④交通や通信」「⑤その他の事象」で扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内での結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。(思考力, 判断力, 表現力等)

- (3)・日本の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。(学びに向かう力, 人間性等)

6 単元(教材)の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的	① 日本の諸地域において、それぞれ①から⑤までで扱う	① 日本の諸地域について、よりよい社会の実現を視野

特色や地域の課題を理解している。 [C(3)ア(ア)] ② ①から⑤までの考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。 [C(3)ア(イ)]	中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。 [C(3)イ(ア)]	にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 [地理的分野(1)目標(3)]
--	--	--

7 指導と評価の計画(42 時間)

次	主な学習活動(○)・手立て(●)・ICT(★)	知	思	態	評価方法等
1	○単元の学習について探究するテーマについて理解を深める(1 時間) ●探究テーマを自分事として捉えさせ、学ぶ意義を感じさせるものに設定する		①	①	Google スプレッドシート 授業プリント
2	○九州地方について①から⑤の視点を用いて特色や課題を見出し、考察する。(7 時間) ●複数の資料を①から⑤の視点で多面的・多角的に捉えることができるようにする。 ●生徒自身でテーマを設定し、複数の視点に関連付けて考察を行う。 ●探究に向けて情報収集・テーマ設定・探究活動の手順に慣れさせるため、グループ活動で行わせる。 ★Google スプレッドシートで情報をまとめる。	① ②	①		Google スプレッドシート 授業プリント
3 (本 次)	○関東地方について①から⑤の視点を用いて特色や課題を見出し、考察する。 1 時間目:基本的な語句をプリントを用いて確認する。 2・3 時間目:①から⑤の視点を基に関東地方の情報を収集する。 ●情報収集に重点を置くため、適宜生徒が集めた情報を確認しつつ、解説を加えながら知識を押さえる。 ★複数の情報を①から⑤の視点で多面的・多角的に捉えさせ、まとめる。 4・5 時間目:集めた情報を基に、課題や特色から各自(本時)でテーマを設定し、考察する。 ★Google スプレッドシートでそれぞれが集めた情報を共有しながら考察させる。	① ②	①		Google スプレッドシート 授業プリント
4	○中国・四国地方について①から⑤の視点を用いて特色や課題を見出し、考察する。(5 時間) ●複数の資料を、①から⑤の視点で多面的・多角的に捉えることができるようにする。 ●生徒自身でテーマを設定し、複数の視点に関連付けて考察を行う。 ●テーマ設定に重点を置き、視点の関連付けを意識させ、例を用いながら行う。 ★Google スプレッドシートで情報をまとめる。	① ②	①		Google スプレッドシート 授業プリント
5	○近畿地方について①から⑤の視点を用いて特色や課題を	①	①		Google スプレッ

	見出し、考察する。(5 時間) ●複数の資料を、①から⑤の視点で多面的・多角的に捉えることができるようにする。 ●生徒自身でテーマを設定し、複数の視点を関連付けて考察を行う。 ●探究活動に重点を置き、考察の結果について資料等を用いて、根拠を明確に示すことを理解させる。 ★Google スプレッドシートで情報をまとめる。	②			ドシート 授業プリント
6	○中部地方について①から⑤の視点を用いて特色や課題を見出し、考察する。(5 時間) ●複数の資料を、①から⑤の視点で多面的・多角的に捉えることができるようにする。 ●生徒自身でテーマを設定し、複数の視点を関連付けて考察を行う。 ●一連の探究活動を個人で行い、場面ごとに教員からフィードバックを行う。 ★Google スプレッドシートで情報をまとめる。	① ②	①		Google スプレッドシート 授業プリント
7	○東北地方について①から⑤の視点を用いて特色や課題見出し、考察する(5 時間) ●複数の資料を、①から⑤の視点で多面的・多角的に捉えることができるようにする。 ●生徒自身でテーマを設定し、複数の視点を関連付けて考察を行う。 ●前次までの探究活動で留意した点を踏まえ、再度個人で探究活動を行う。 ★Google スプレッドシートで情報をまとめる。	① ②	①		Google スプレッドシート 授業プリント
8	○北海道地方について①から⑤の視点を用いて特色や課題を見出し、考察する。(5 時間) ●複数の資料を、①から⑤の視点で多面的・多角的に捉えることができるようにする。 ●生徒自身でテーマを設定し、複数の視点を関連付けて考察を行う。 ●前次までの探究活動で留意した点を踏まえ、個人での探究活動を行う。 ★Google スプレッドシートで情報をまとめる。	① ②	①		Google スプレッドシート 授業プリント
9	○探究テーマ 「地域が置かれている環境が地域の課題や特色を生み出し、生活や文化等の違いを生み出す。」 についての意見を述べる(4 時間) ●パフォーマンス課題として考えさせる。 「日本の諸地域の中で今後、発展していく可能性を持っているのはどの地方か」 ●教員のフィードバックを適宜行う。 ●前次までの探究活動を踏まえて、情報収集・テーマ設定・根拠を示した考察を行う。 ★Google ドキュメントでフォーマットを作成し、これまでに各地方を①から⑤の視点でまとめた Google スプレッドシートを参考にする。			①	Google スプレッドシート Google ドキュメント

補足:取り扱う地域の順番として、生徒の考察のしやすさを踏まえ、「自然」の視点が中心となっている「九州地方」を最初に扱う。2 番目に、「関東地方」を扱う。生徒にとって大都市のイメージが強い関東地方を扱うことで、探究に取り組みやすいと感じたためである。3 番目は「中国・四国地方」で生徒の身近な地域を取り扱う。4 番目は「近畿地方」で「人口・都市・村落」の視点で考察を行う。これは、前次で取り扱う「中国・四国地方」の中核となる視点である「交通・通信」との関連がしやすいと考えたためである。5 番目は「中部地方」を扱い、「産業」の視点を中心に考察を行うことで①から④の視点を網羅して学習する。6 番目は「東北地方」を扱い、⑤「その他」の視点を用いて考察を行う。7 番目に「北海道地方」で改めて「自然」に関する視点で考察を行う。そして、探究テーマに沿って各地方の特色や課題を比較しながらパフォーマンス課題に取り組む。

8 本時の展開(3次 4時間目)

学習内容	指導上の留意点	評価基準と方法
○関東地方の特色・課題について確認する。 (全体)	・本時の活動に関わる特色や課題について再確認し、学習の見通しを立てさせる。	
学習課題:関東地方の特色や課題を自分で決めたテーマに沿って 「自然」「人口」「産業」「交通・通信」の5つの視点で考察する。		
○それぞれの特色や課題の要因等を考察する。 (個人)	・考察する課題は生徒自身に選択させる。 ・考察するにあたっては、中心となる視点と他のどの視点と関連付けて考察するかを明確にさせる。 ・本時までにまとめた①から⑤の視点でまとめた情報を活用させる。 ・生徒同士で必要な情報を共有できるスプレッドシートを作成する。 ・机間巡視を行いながら生徒の考えに対し、フィードバックを行う。	・Google ドキュメント(ワークシート)
★ICT の活用場面 ・Google スライドで作成したフォーマットを用いる。 ・本時までの授業で①から⑤の視点を基に Google スプレッドシートでまとめた情報を用いて考察させる。 ・生徒同士で必要な情報を共有できるようなスプレッドシートの作成		
○考察結果の中間発表を行う。 (全体・小集団)	・全体もしくはグループで考察した結果の途中段階を報告する。	【A 評価の基準】 ・身に付けた知識を基に、関東地方の特色や課題について、2 つ以上の視点を用いて原因の追究ができている。
○振り返りを行う。 (全体)		

思・判・表①

1 日 時 2025年(令和7年)10月29日(水)5校時

2 学年・組 2年2組

3 単元名(題材名) 「平行と合同」

4 単元(題材)について

(1) 単元観

本単元では、基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質を基にしてそれらを確認説明することを通して、「なぜそれが言えるのか」を考える力を育てる。中学校において、図形の学習内容は次の通りである。第1学年では、図形の作図や移動を取り扱っている。また、空間における直線や面の位置関係を知り、空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されているものと捉えたり、平面上に表現したり、読み取ったりしている。さらに、扇形の弧の長さや面積、基本的な柱体、錐体及び球の表面積と体積が求められるようにしている。そしてそれらを通して図形についての豊かな感覚を育み、図形についての理解を深めるとともに、論理的に考察し表現する力を養ってきている。第2学年では、三角形や四角形などの多角形の角の大きさについての性質を、数学的な推論を用いて調べることができるようになる。その際、図形をよく観察したり、作図したりする操作や実験などの活動を通して、その推論の過程を他者に伝えるように分かりやすく表現できるようにする。

(2) 生徒観

本学級で行った数学に対する学習調査及び意識調査の結果は次のとおりである。

質問項目	本学級の正答率 (肯定的評価)
(1) ⑦の角の大きさを求めなさい。(三角形の内角の和)	80.5%
(2) ⑦の角の大きさを求めなさい。(四角形の内角の和)	82.7%
(3) ⑦の角の大きさを求めなさい。(直線の角度は180度)	84.0%
(4) 点Bと対応する点を答えなさい。	88.9%
(5) 線分BEは直線AMによって垂直に二等分されています。このことを記号を使って表しなさい。	59.0%
(6) $\angle BAO$ と大きさの等しい角を答えなさい。(対応する角)	48.1%
(7) 数学の図形の単元は好きですか。	47.5%
(8) 数学の授業では、自ら学ぼうとしていますか。	83.0%
(9) 数学の授業では、学級の生徒との話し合う活動や教え合う活動を積極的に行っていますか。	92.7%
(10) 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、文の組み立てを工夫して発表していますか。	64.6%
(11) 分からない問題のとき、これまでの学習を確認しようと思いますか。	90.2%
(12) 難しいと感じる問題はヒントを得ながらもう一度自分で考えたいと思いますか。	59.8%

(1)～(4)の学習調査の結果から、本学年の生徒は、角度の求め方は全体的に定着しているが、一定数の生徒は、三角形や四角形の内角の和について理解できていない。(5)の学習調査の結果から、第1学年で学習した垂直二等分線から得られる性質を記号で正しく表すことができていない。平面図形における視覚的な理解が乏しく、記号を用いて表現できることと結びついていないためと考えられる。(6)の学習調査から、対応する頂点を意識して等しい角を答える生徒が少ないことも分かった。

(7)(8)(9)の意識調査から、図形という単元自体に苦手意識はあるものの、授業は一生懸命に取り組もうとしている生徒が多い。図形が苦手な理由として「色々な公式があり、公式も忘れてしまう」「式を考えられない。そもそも計算が苦手。」「形がごちゃごちゃしている。記号や数字や計算で複雑」というのが挙げられた。(10)の意識調査から、相手に伝えることも苦手としている。理由としては、「頭で分かっているけど言葉にできない」「自信がない」「一人で考えたいから」ということが挙げられた。(11)(12)の意識調査から、これまでの学習を振り返り、課題に生かしたいと考える生徒が多い一方で、どこで何を確認すれば課題が解決できるのかが分からないことにつまずきがあり、明確なヒントを得ながら自力で答えたいと考える生徒が多かった。本学年の生徒の様子は、他者と関わり合いながら課題を解決できる生徒が多い。学力が近い生徒同士で集まって学習形態を形成し、グループによって進度や定着度にはバラつきがある。ICT を活用して生徒自身が取り組みたい内容、取り組める内容から進めている。そのため、全体で押さえたい、理解させたい場面では、全体指導に切り替えながら授業を進めている。

(3) 指導観

指導にあたっては、単元全体を通して、以下のことに留意しながら授業を進める。

- ・単元を貫く問いを「新たな性質を見出し、その理由を考えよう。」と設定し、その図形の性質がなぜ成り立つのかを考える授業を通じて、図形の性質が理解できるようにする。
- ・ICT を活用し、生徒が操作を通じて自ら図形の性質を確かめたり、発見したりすることができる ようにするとともに教員の操作を見せることで、より理解が深まるようにする。
- ・振り返りの視点を「その性質が成り立つ理由」や「性質を見つけるためのコツ」を言葉で振り返る。
- ・授業ごとに図形の性質をまとめた【事実シート】を生徒自らが作成し、理由や課題解決の際にどの事実を用いて考えたのかを選択できるようにする。なお、単元を進めていく中で事実シートは加筆していく。また、教員の作成した【事実シート】や図形の性質を説明するための【ヒントカード】は、生徒とドライブ上に共有することで生徒の課題を解決するためのヒントになるようにする。
- ・単元マップと振り返りの共有、生徒の学習支援、進捗状況の確認として ICT を活用するとともに、十分に考えさせたり議論させたりする時間を確保するため、クラスルームで授業の流れを提示するなどして、生徒の主体的な活動を損なわないようにする。

5 単元(題材)の目標

- (1) 平面図形についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけることができる。 (知識、技能)
- (2) 数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力を養うことができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) 平面図形の性質について、数学的活動の楽しさや数学の良さを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度、多様な考えを認め、より良く問題解決しようとすることができる。 (学びに向かう力、人間性等)

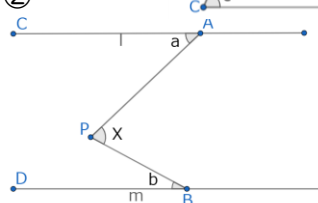
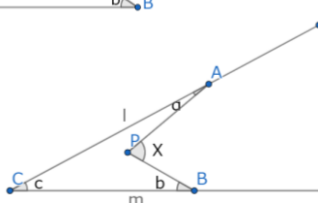
6 単元(教材)の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①平行線や角の性質を理解している。 ②多角形の角についての性質が見いだせることを知っている。	①基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質を基にしてそれらを確認説明することができる。	①平面図形の性質の良さを実感して粘り強く考え、平面図形の性質について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。

7 指導と評価の計画(9 時間)

時	主な学習活動(○)・手立て(●)・ICT(★)	知	思	態	評価方法等
1	○三角形の内角の和(180度)を用いて多角形の内角の和が求められることを理解する。 ●ヒント:新しい性質を見つけるには 補助線, 分かる角度は書き込む ★クラスルーム・スプレッドシート・ドキュメント・スライド・ドライブ (単元マップ+振り返り+共有)	②	①		プリント 振り返り 行動観察
2	○多角形の内角の和の求め方を抽象的に表す方法を考える。 ●ヒント:具体的な数⇒ 文字で表す ★ジオジェブラ (n角形と内角の和の関係の関係性に気づけるようにする。)	②	①		プリント 振り返り 小テスト
3	○多角形の外角の和(360度)が成り立つことを理解する。 ★ジオジェブラ (多角形の外角の和が360度になっていることを予測)	②	①		プリント 振り返り 行動観察
4	○いくつかの事例を比較しながら、対頂角・錯角・同位角の性質について理解できる。 ●対頂角の大きさの性質については、直線の角度をもとに理由付けられることを押さえる。 ●ヒント:～から 理由づけ ★ジオジェブラ (2直線が平行であるときに錯角と同位角が等しくなることに気付く)	①			プリント 振り返り 行動観察
5	○根拠を【事実シート】から選択しながら課題解決できる。 ●錯角や同位角が等しければ、2直線は平行になることを押さえる。	① ②			プリント 振り返り 行動観察
6	○根拠を【事実シート】から選択しながら課題解決できる。 ●角の大きさを求める問題の際に【事実シート】から何を用いて課題解決ができるのかを整理する。	① ②			プリント 振り返り 行動観察
7 8 9 本 時	○三角形の内角の和が180度になる根拠を明らかにすることができる。 ○ $\angle x$ の求め方を根拠を明らかにして考える事ができる ●ヒント:学習内容を使うとともに、 角や点、直線に名前を付ける・数学用語 ●補助線を引いたヒント図を提供する。 ●【ヒントカード】【事実シート】の確認 ●補助線を引いたヒント図を提供する。 ★クラスルーム・スプレッドシート・ドキュメント・スライド・ドライブ (単元マップ+振り返り+共有) ★ジオジェブラ 点Pを動かしながら $\angle X$ の大きさの変化について見取る。		①	①	プリント 振り返り 行動観察

8 本時の展開(9時間目)

学習内容	指導上の留意点	評価基準と方法
Ⅰ 導入 ○前回の確認 ① $\angle X = \angle \alpha + \angle b + \angle c$ ② $\angle X = \angle \alpha + \angle b$ ③ $\angle X = \angle \alpha + \angle b + \angle c$	○前回の生徒の記述や発言を取り上げ、考えさせる。場合に応じて、図形の性質を見つけて説明するための【ヒントカード】を参照させる。 ①  ②  	
∠xはなぜその方法で求められるのか根拠を明らかにして考えることができる。		
○今日のすることの確認 ★クラスルームで指示 ○各自の目標の設定 ★スプレッドシート (例) 【ヒントカード】を参考にして③④の求め方を書くことができる。 2 展開 ○①～③の理由について考える ★ドキュメント 【事実シート】 ★スライド 【ヒントカード】 ★スプレッドシート 【進捗状況+ヒント図+コツシート】 3 まとめ ○今日考えたことについて自分の考えを書く。	○生徒の状況に合わせて、目標を持って生徒が授業に取り組めるようにする。 ○書くことが難しい生徒には、使った【事実シート】をもとに誰かに伝えることができれば良いことを伝える。 ○特に理解が難しい生徒には、解説動画を提示する。そこから理解を深め、相手伝えられれば良いことを伝える。 ○前時の学習までに各自が図形の性質についてまとめた【事実シート】をもとに、本時の課題に取り組めるようにする。 ・平行線と錯角 ・平行線と同位角 ・三角形の内角の和と外角の性質 ○生徒と共有してきた【ヒントカード】から補助線を引いてみることや等しい角には記入することなどを実践できるようにする。 ○どのような補助線を引いてよいのか分からない生徒には、補助線が引かれた「ヒント図」を提示する。 ○生徒同士の交流から成り立つ理由を「数学用語を使って簡潔にまとめることができるか」という視点を持たせる。 ○学習を振り返って学習内容や自分自身の取り組みについて書かせる。 (例) ・等しい角度を見つけるために平行線を書くことが必要 ・三角形の内角の和と外角の関係を使うと計算が楽になる。	ワークシート 【思考・判断・表現】 B 評価…本時の課題に対して既習事項を振り返りながら、根拠を明確にして∠Xの求め方を表現している。 A 評価…∠Xを求め方を表現することを通して、図形の新たな性質に気づく。 振り返り 【主体的に学習に取り組む態度】 B 評価…学習の過程を振り返ることができている。 A 評価…学習の過程を振り返り、学んだことを次に生かそうとしている。

1 日 時 2025年(令和7年)10月29日(水)5校時

2 学年・組 2年3組 31名

3 単元名(題材名) (4) 気象とその変化 (イ) 天気の変化

※ 啓林館教科書 3章 天気の変化と大気の動き

4 単元(題材)について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領ではイ 天気の変化(イ) 前線の通過と天気の変化 前線の通過に伴う天気の変化の観測結果などに基づいて、その変化を暖気、寒気と関連付けて捉えることとしている。理科の見方・考え方を働かせながら、気象とその変化に関する探究的な学習を通して、天気の変化や日本の天気の特徴を大気中の水の状態変化や大気の動きと関連付けて理解させるとともに、観察・実験などに関する技能を身に付けさせ、思考力・判断力・表現力を育成し、主体的に探究しようとする態度を養うことが主なねらいである。

その際、身近な気象の観察、観測を通して、気象要素と天気の変化を見いださせるとともに、気象現象について、それが起こる仕組みと規則性や関係性を見出して表現させることが大切である。

小学校では、第5学年で雲の量や動きが天気の変化と関係することや映像などの気象情報を用いて天気の変化が予測できることについて学習している。

ここでは、前線の通過によって起こる気温、湿度、気圧、風向、天気の変化などを、暖気と寒気と関連付けてとらえさせることがねらいである。気圧配置によって、大気の動きが生じることを理解させ、日本付近の高気圧や低気圧の移動と、それに伴う天気の変化を、地球規模の大気の動きの一部として捉えさせる。

(2) 生徒観

本学級は、既習事項や知識的理解を確かめる問いに対して数名が挙手をして発言をする。指名等を行えば、ほぼ全員が回答することができる。しかし、既習事項を活用した発展的な問題について、思考を止める生徒もいれば、資料を読み返す生徒もいる。生徒個々の理解度や学習姿勢に大きな差がみられる。

本学級で行った理科に対する学習意欲及び意識調査の結果は次のとおりである。

質問項目	肯定的回答	否定的回答
①理科の授業で、自ら学ぼうとしている。	96.4%	3.6%
②理科の授業で考えることが面白い。	89.3%	10.7%
③理科の授業中、自分の考えは仲間に認められていると思う。	82.1%	17.9%
④理科の授業で学習端末(Chromebook)を利用することで、学習活動がスムーズに行われたり、理解が深まったりしている。	89.3%	10.7%
⑤理科の授業で、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思っていますか。	89.3%	10.7%

アンケートの結果から「①理科に対して自ら学ぼうとする」学習意欲はかなり高いことがわかる。しかし、以下の標準学力調査の結果から、教科学力について課題が見られる。

以下、本学年の標準学力調査【地球分野の推測や説明する問題】の結果である。

質問項目	本学年の 正答率(%)	全国平均 (%)
⑥堆積した土砂の粒の大きさの変化をもとに、地層が堆積した当時の海の深さの変化を推測できる。	18.8	20.9
⑦震源がほぼ同じである2つの地震の震度分布をもとに、マグニチュードと最大震度・ゆれが伝わる範囲の広さの関係を説明できる。	15.6	15.2
⑧震源からの距離と初期微動継続時間の長さとの関係を指摘できる。	67.2	70.6
⑨緊急地震速報のしくみをもとに、緊急地震速報が届くと同時に主要動が始まる地点の震源距離を推測できる。	7.8	15.0

本学年の正答率と全国平均を比較すると、⑥や⑨の推測する問題に大きな差があることがわかる。また、⑥や⑦のように説明する問題にも差がある。このことから、推測して説明することに課題があると言える。

(3) 指導観

以上の単元観・生徒観を基に、指導については、次の3点に留意する。

①寒冷前線の通過する際の特徴として、短時間の比較的強い降雨、雷、通過後の気温低下、風向の変化などの現象が観測できることから、寒冷前線に伴う暖気、寒気の入れ替わりをモデル図や3D モデルを用いて、考察させていく。同様に、前線の移動については、気象衛星画像やデジタル教材などを積極的に活用して視覚的に捉えさせていく。

②学習を進めていく中で、系統的な学習のつながりを生徒に実感させるとともに、基礎学力の定着を図るために、毎時間ドリル学習を交えながら授業を進めていく。

③単元を通して結果を分析、解釈し、規則性や関係性を見いだして表現する場を設定する。その過程で、ICT を活用しながら観察、実験、実習などの結果を共有し、個人で分析したり、他者と比較しながら協働的に学んだりすることで、一人一人の資質能力の育成を図りたい。ICT を活用し、授業者が個の学習状況を瞬時に把握できることから、個に応じた手立てを考え実践し、生徒の学習姿勢向上に努めていく。

5 単元(題材)の目標

- (1) 気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、前線の通過と天気の変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けること。(知識及び技能)
- (2) 前線の通過と天気の変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、前線の通過と天気の変化についての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究すること。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 前線の通過と天気の変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を養うこと。(学びに向かう力、人間性等)

6 単元(教材)の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①等圧線、高気圧や低気圧の意味を理解し、天気図から天気や風向・風力を読み取ったり、雲画像から雲の分布の特徴を読み取ったりしている。 ②複数の天気図から気象要素の	①天気図の気圧配置から大気の動きを立体的に捉え、気圧配置と天気の関係について考えることができている。 ②低気圧や高気圧の移動の規則性を見いだしている。	①気象要素と天気の変化の関係をみいだそうとしている。

連続的な変化を読み取っている。 ③温帯低気圧の発達と、前線ができる仕組みを理解している。 ④寒冷前線や温暖前線の通過に伴う天気の変化を理解している。 ⑤日本付近の大気の動きを地球規模の大気の動きの中で捉え、地球規模の大気の動きの原因を理解している。	③気温が急に变化する理由をモデル実験の結果と関連付けて説明している。 ④天気図と観測データを関連付けて、前線の通過に伴う天気の変化を説明している。	
--	---	--

7 指導と評価の計画(8時間)

時	主な学習活動(○)・手立て(●)・ICT(★)	知	思	主	評価方法等
1	○等圧線と風の吹く仕組みを関連づけて理解する。 ●等圧線を実際にかく作業を行わせた後に、高低差に気づかせ、そこで生じる空気の動き(風)が起こることを見いださせる。 ★等圧線図を立体的に横から見た図を用いる。	①			授業プリント
2	○高気圧と低気圧のまわりの大気の動きと天気の特徴をまとめる。 ●等圧線の既習を想起させ、地球規模で起こることを見いださせる。 ★3D マップを用いる。		①		授業プリント
3	○日本付近における低気圧や高気圧の動きと天気の変化について、実習を通して調べる。 ●既習事項を参考にさせ、調べる活動を通して予報できることに気づかせる。	②	②		授業プリント ロイロノート
4	○気団と前線について理解する。 ●暖かい空気と冷たい空気の動きに着目させ、実験を通して空気の動きを動画で保存させる。 ★クロームブックのカメラ機能を用いて、何度も見返せるようにする。	③			授業プリント
5	○前線の通過と天気の変化を構造で理解する。 ●前線を断面的に横断的に理解できるように、図や3D マップを用いて考えさせる。 ★3D マップを用いて、視覚的に構造理解を図る。	④	③		授業プリント
6	【探究学習】 ○地球規模での大気の動きを知る。 ●地球規模でどのような大気の動きになるか考えさせることで、予報するための根拠になることを理解させる。	⑤			授業プリント
本時	○日本付近における低気圧や高気圧の動きと天気の変化を予報する。(天気図の整理を行う。) ●★協働的に学習を進めていけるように、スプレッドシートを用いて、天気図の情報を整理させる。 ★ロイロノートで天気図から気象要素を読み取る。		④		授業プリント ロイロノート
	○日本付近における低気圧や高気圧の動きと天気の変化を予報する。 ●★グループで天気予報の動画を撮影し、記録させる。 ★クロームブックのカメラ機能を用いる。			①	ロイロノート

8 本時の展開(7時間目)

学習内容	指導上の留意点	評価規準と方法
○提示された A・B・C の3種類のシートを見る。 ○A・B・C の4日目の天気について個人で情報を整理し、予報する。 →沖縄・福岡・福山市・大阪・北海道の5か所を予報する。	・A シート(梅雨の時期の3日間) B シート(冬の頃の3日間) C シート(夏の頃の3日間) ※難易度が違うものを準備する。 ※A は、全員最初にチャレンジさせる。 ※次時は、グループで天気予報の動画を撮影することを伝える。	
MISSION 気象要素を整理して、天気を読み取り、予報してみよう!		
○自分と他者の考えを比較しながら、4日目の天気を予報する。	・ロイロノートに A・B・C を送付し、気象要素をまとめられるシートを活用する。 ※根拠をもって予報(説明)をさせる。 ※気圧変化を数字で捉えさせる。 ※前線の通過と大気の動きに着目させる。 ※雨の様子も前線や数値からゆるやかなのか、激しいのか、短時間なのか長時間なのかを考えさせる。	【授業プリント】 天気図と観測データを関連付けて、前線の通過に伴う天気の変化を説明している。 評価規準 A:根拠をもって予報している。 B:予報までできている。 C:根拠がない。
★ICT 活用の場面【スプレッドシート】 ・各地域の天気予報を入力させ、他者と比較がすぐできるようにする。 ・個人で時間をとったあとに、自分の進捗がどこまでできているかを入力させる。困っている生徒はできている生徒にアドバイスをもらう。意見の違う生徒は、意見を交流して思考を深めさせていく。		
★ICT 活用の場面【ロイロノート】 3日間の天気変化を並べることで視覚的に読み取りやすいようにする。 天気図に書き込めるようにする。		
○まとめ 自分の考えと根拠をもって4日目の天気予報したものをまとめていく。 ○ふりかえり	※どういう根拠があって天気予報したのか、考えを明確にさせていく。 ・次時の天気予報撮影に向けて、考えたことや感じたこと、思ったことを書かせていく。 ・理科用語を用いて、ふりかえりを行う。	【例:A 評価】 天気図を使って、天気を予報することができた。気圧配置を見ながら、低気圧の東側で天気が崩れやすいこと、前線通過に伴う天気変化をもとに読み取ることができた。A の天気図では停滞前線の動きから福岡は短時間の激しい雨から晴れに変わったことを読み取れた。天気図をもとに明日の天気を予報してみようと思った。 【例:B 評価】 天気図を見ながら4日目の天気を予報した。気圧が変化していくことで天気が変わると思った。なんとなく見方が分かかってきて、明日の天気を当てたいと思った。

1 日 時 2025年(令和7年)10月29日(水)5校時

2 学年・組 3年1組

3 題 材 名 「曲の特徴を感じ取りながら、音楽を味わおう」 組曲「展覧会の絵」

4 題材について

(1)題材観

本題材は、中学校学習指導要領音楽科、「B 鑑賞」ア(ア)、イ(ア)(イ)を組み合わせ、「曲想と音楽の構造との関わりや、音楽の特徴と他の芸術との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと」をねらいとして設定した。

本題材では、教材として、組曲「展覧会の絵」を扱う。この曲は、ピアノ曲として作曲され、後に多くの作曲家によって編曲された。今回は、ラヴェルによって編曲されたオーケストラ版を使用する。作曲者ムソルグスキーが、友人のガルトマンの遺作展で見たとされる絵画をもとに作曲した10曲と、ムソルグスキー自身が絵画展を歩いている様子とされる5曲の「プロムナード」から構成されている。

絵画がもととなっている曲は、その絵画やタイトルなどを手掛かりとして聴くと、旋律や音色などの音楽を形づくっている要素と絵画の構図や色使いなどとの関わりを感じられ、音楽と絵画を結び付けて聴くことの楽しさを味わうことができる。

「キエフ(キーウ)の大きな門」は、楽曲全体の終曲に用いられ、キエフ(キーウ)市に当時建設される予定であった建築物の設計図として描かれた絵をもとに作曲された。大きな門の様子を壮大な響きで表現している一方で、亡くなった友人への思いが込められているようにも感じられる部分もある。

組曲「展覧会の絵」は旋律同士の比較や、ピアノ演奏と管弦楽演奏との比較などにより、多面的多角的に視野を広げながら鑑賞することができる。また、耳なじみのある旋律のため、生徒が学習に取り組みやすい曲でもある。それぞれの曲のよさを味わいながら、曲全体を通して音楽と他の芸術と関連付けながら味わう力を身に付け、生活や社会の中でより豊かに音楽に親しんでいくことにつながる題材である。

(2)生徒観

【事前アンケート】

	肯定的評価	否定的評価
①音楽の授業で鑑賞することに興味を持っている。	80.2%	19.8%
②曲想と楽譜との関わりについて考えることができる。	53.7%	46.3%
③音楽を分析することに興味を持っている	54.2%	45.8%

本学級は、6月に「交響詩 フィンランディア」を教材に、音楽と歴史との関わりについて学習し、旋律の中の細かい工夫点に気づくことができた。

事前アンケート①では、ヘッドフォンを積極的に使用することにより、自分のペースで落ち着いて鑑賞ができ、繰り返し聴くことで楽曲に対する親しみを持つことができている生徒が多い。しかし、興味を持っていない生徒も一定数おり、「音楽を聴くことは好きだが、何を伝えたいのかよくわからない」という思いを持っている。

事前アンケート②では、楽譜そのものから、音をイメージする技能の不足から、苦手意識を持っている生徒が46.3%と多い。

事前アンケート③では、「分析することで新しい発見がある」「楽譜に書いてあることの意味がわかるとおもしろい」「ほかの人の意見から、新しい考え方に気づいた」などの意見があり、音楽を鑑賞することの面白さ、

協働することの良さを感じている生徒が約半数いる。

(3) 指導観

生徒が主体的に音楽を分析するとともにし、鑑賞の視野を広げ、音楽のよさや美しさ、鑑賞することの楽しさを味わえるようにするため、次の3点に留意する。

- 楽譜を提示することで、視覚的に音楽を捉え、一つ一つの音符に込められた工夫点や音楽記号の大切さに気づけるようにする。心情や絵画から得た印象を表現するための作曲者の工夫点から、音楽と他の芸術とのかかわりについて目をむけることができるようにする。
- タブレット及びヘッドフォンを活用することで個別最適な学びと協働的な学びを一体的に両立することができると考える。手立てとして、生徒が音源を選んで鑑賞できるようにすることで、自己のペースで音楽を味わい、深い分析につなげることができると考える。また、共有機能を活用し、個人・グループの思考を見える化し、離れた生徒同士・グループ同士で共有できるようにすることで、個人の思考が深まるようにする。
- グループ協議の場面で、使用するタブレットを限定し、生徒が協議に集中し、活発に対話ができる環境にする。意図的に設定することで、音楽を味わう視点を広げることができると考える。

5 題材の目標

- (1) 曲想と音楽の構造との関わり及び音楽の特徴と他の芸術との関わりについて理解する。(知識)
- (2) 旋律の変化を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと、感受したこととの関わりについて考え、よさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 音楽の特徴と他の芸術との関わり及び旋律の違いによる音楽が生み出す雰囲気や表情などの変化に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。
(学びに向かう力、人間性等)

6 題材の観点別評価規準

知識	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 組曲「展覧会の絵」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。 組曲「展覧会の絵」の音楽の特徴と他の芸術との関わりについて理解している。	思 組曲「展覧会の絵」の旋律の変化を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	態 組曲「展覧会の絵」の旋律による音楽が生み出す雰囲気や表情などの変化や、他の芸術との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

7 指導と評価の計画(4時間)

時	主な学習活動(○)・手立て(●)・ICT(★)	知	思	態	評価方法等
1	ねらい 組曲「展覧会の絵」の旋律による音楽が生み出す雰囲気や表情などの変化や、他の芸術との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 ○学習の流れを確認する。 ●学習のゴールまでの見通しを持たせるために、「学びの地図」を活用する。			○	観察 ワークシート

	★スプレッドシート ○楽曲について知る。 ●作曲家と作曲された経緯について学習するために、ワークシートと解説プリントを用いる。 ○プロムナードを分析し、比較する。 ・各自で鑑賞し、ワークシートにメモをする。 ・意見が異なる人や似ている人を探して、意見を共有する。 ・各自のワークシートをもとに、グループで共有する。 ・共有した内容をスプレッドシートに記入する。 ●音源や動画を準備する。 ★Google ドライブ、スプレッドシート、ロイロノート ○分析内容を全体で共有し、各自で鑑賞し、学習内容を振り返る。				
2 本 時	ねらい 組曲「展覧会の絵」の旋律の変化を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。 ○前時の学習を振り返る。 ・プロムナードの分析内容について共有する。 ★スプレッドシート ○「キエフ(キーウ)の大きな門」の楽譜を見て、表現の仕組みについて分析する。 ・各自で鑑賞し、ワークシートにメモをする。 ・意見が異なる人や似ている人を探して、意見を共有する。 ・各自のワークシートをもとに、グループで共有する。 ・共有した内容は、ロイロノートに記入する。 ・スプレッドシートで整理する。 ●音源や動画を準備する。 ★Google ドライブ、スプレッドシート、ロイロノート ○分析内容を全体で共有し、各自で鑑賞し、学習内容を振り返る。		○	○	観察 ワークシート
3	ねらい 曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 ○前時までの学習内容を確認する。 ・分析内容について共有する。 ★スプレッドシート ○学習内容を参考に、組曲「展覧会の絵」から自分で 1 曲を選び、分析する。 ・楽曲を分析し、表現の仕組みを見つける。 ●表現の幅を広げることができるよう、語句や用語についての参考資料を準備する。 ★Google ドライブ、Google スライド、スプレッドシート ○曲ごとに Google スライドにまとめる。 ●楽譜や音源を用いて作成するように準備する。	○	○	○	観察 ワークシート Google スライド
4	ねらい 音楽の特徴と他の芸術との関わりについて理解する。 ○スライドを使って、プレゼンテーションをする。 ●お互いのプレゼンテーションを参考に、鑑賞のポイントを整理させる。 ○全曲を通して鑑賞する。 ・動画を用いて、全体で鑑賞する。 ○学習全体を振り返り、鑑賞した感想や気づきをスライドに加筆する。 ★Google スライド	○		○	観察 Google スライド

8 本時の展開(2時間目)

学習内容	指導上の留意点	評価基準と方法
1 「キエフ(キーウ)の大きな門」の一部を鑑賞する。	・音楽を形づくっている要素のうち、「旋律」は意識をするように確認する。	
作曲者の意図を感じ取り、音楽と絵画の関わりを見つけることができる。		
2 音楽と絵画の関わりを見つける。 ①【個別】 ・共有ドライブの音源を聴き、楽曲を分析し、ワークシートに記入する。 ・意見が違ふ人や同じ考えの人を見つけ、ワークシートにカラーペンで加筆する。 ②【グループ共有】 ・4人編成(9グループ)で活動する。 ・グループで、スプレッドシートへ記入する。 ・共有している部分を再生し、聴きながら作業をする。 ●各グループ記録用1台、再生用1台を使用する。 ③【全体共有】 ・電子黒板を使用し、グループの記入内容を共有し、さらに思考を深める。	ICTの活用 スプレッドシートで、音源や楽譜などの必要な情報を一覧で提示する。 ・「音楽と絵画とのつながり」や「作曲された経緯」を意識させる。 ・曲調の変化に合わせて4つに分割し、考えることができるように準備する。 ・「雰囲気」だけではなく、作曲者の心情にも留意するように指示をする。 ICTの活用 ヘッドフォンを活用することで、各自が音楽に没頭できる環境をつくる。 ・なぜBに、荘厳な部分があるのかについても考えさせることで、絵画と音楽とのつながりだけでなく、作曲された背景とのつながりも意識させる。 ⇒亡くなった友人への追悼の気持ち。 ICTの活用 分析内容をスプレッドシートやロイロノートを使って共有し、鑑賞の視野を広げることができるようにする。 本時の学習活動を整理するために個別で鑑賞する時間を設定する。	【主体的に学習に取り組む態度】 旋律による音楽が生み出す雰囲気や表情などの変化や、他の芸術との関わりに関心をもっている。 (ワークシート) A: 自分の考えと比較しながら、複数の生徒の考えを加筆している。 B: 他の生徒の考えを加筆している。 【思考・判断・表現】 旋律の変化を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりや、音楽の特徴と他の芸術との関わりについて考えている。(ワークシート) A: 音楽の仕組みの変化を捉えている。 B: 音楽の仕組みを捉えている。

1 日 時 2025年(令和7年)10月29日(水)5校時

2 学年・組 3年2組

3 題 材 名 「心を動かすアニメーション ～コマが紡ぐ物語～」

*学習指導要領:A 表現(1)ア(ア)、(2)ア(ア)(イ) B 鑑賞(1)ア(ア)

*教科書:絵画や彫刻分野 P.78～79 写真や映像を撮影する

※P.40～41、P.93 (関連ページ)

4 題材について

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領第2学年及び第3学年の目標と内容、A 表現(1)ア(ア) が示す「対象や事象を深く見詰め感じ取ったことや考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。」という項目に適した題材である。題材全体としては、発想や構想、技能面での力を磨くことを主軸とし、特に本時に取り組む内容は、A 表現(2)ア(イ)が示す「材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しを持って表すこと。」という項目につながる場面となる。

本題材では、撮影技法を用いながら、自分で設定したテーマに沿った表現方法を選択し、アニメーションの制作を行う。操作方法がわかりやすく扱いやすい「KOMAX KOMA EX」の Web サイトを使用し、1コマごとに写真を撮影する手法(ストップモーション)を用いる。なお、制作前に5点の技法(①形の変形、②形の移動、③出現・消失、④アングルの工夫、⑤道具の工夫)の映像例を鑑賞し、それらを活かして発想を膨らませる。

(2) 生徒観

本学級で行った美術に対する意識調査の結果は次のとおりである。

1 学期 2 学期

質問項目	本学級の 肯定的評価	本学級の 肯定的評価
① 作品をつくる前にアイデアを考えることは好きですか。	85.7%	89.5%
② アイデアを深めるために意見交流は必要だと思いますか。	92.8%	100%
③ 美術の授業で鑑賞や制作をする時に難しさを感じることはありますか。	57.1% (ある)	52.6% (ある)
④ 自分の気持ちやアイデアを平面や立体で表現することが好きですか。	/	78.9%

また補足事項として、①の項目に関連するものとして、「アイデアを考えたり深めたりする時にどのような方法で行っていますか」という問いに対して「仲間の作品を見る、仲間と意見を交わす」「タブレットで調べる」など、他者からの意見や情報収集によって考えを深めている旨の記述があった。

③の項目に対して「ある」と回答した生徒の意見として、「自分の考え通りに制作することができないとき」が大半を占めた。

④の項目については美術科での絵画や彫刻の分野の既習事項を踏まえたものである。(今年度:挿し絵、トリックアート/前年度以前:水墨画、漫画表現、遠近法、モダンテクニック、スケッチ、風景画 等)

本学級の実態として、絵画や彫刻の分野では、「感じ取ったことや考えたことをもとに構想を練り、形や

線、その組み合わせを工夫し、効果的に表現できている」生徒が約3割、「感じ取ったことや考えたことをもとに構想し、形や線、その組み合わせを工夫し、表現できている」が約5割、「感じ取ったことや考えたことをもとに構想し、形や線、その組み合わせを工夫し、表現できていない、または不足している」生徒が約2割程度である。（※体育大会、文化祭の挿し絵制作での評価を参照している。）

以上の事から、アイデアを深める場面では、意見交流の必要性を感じている生徒がほとんどを占め、自分のアイデアを形にする際に難しさを感じる生徒が半数存在するため、様々な級友と多様なアイデアを交流することができれば、より価値の高い作品制作ができると考えられる生徒集団である。

(3) 指導観

題材観、指導観を基に、次の2点について留意する。

1. 生徒観より、ICTを活用することで、固定化された生徒同士だけではなく、学級全体の作品の状況を交流したり、アイデアのヒントになるような資料をより多く共有できる。これにより、見方や考え方を広げ、深めることにつながると考える。自分の表現に活かすとともに相互の表現や価値観を認め合えるよう、個別や集団での言葉かけを行う必要がある。
2. 生徒が考えを深める中で、「見通し」と「順序付け」に重きを置き、指導を行う。

生徒観のアンケート結果より、生徒が表現に悩んだ際に、生徒同士で学び合うことや調べる場を設定する。生徒の進捗状況、授業での参考作品や資料をいつでも見られるようにドライブ上にアップロードしたり、題材全体の流れやゴールを示したりすることで、今行っている作業だけでなく、完成までを見通せるようにしておく。手軽に鑑賞、交流することができることから新たな表現方法の気づきにつなげる。

また、個人制作の前に班ごとに試作を行い、技法や基本操作に触れる機会を題材の流れに組み込み、協働する中で段階的に制作にかかわる知識を身につけさせたい。生み出した主題をもとに、作品計画を自ら立て、完成までに準備することややるべきことをスプレッドシートの共同編集を用い、細分化していく。内容について整理、順序付けを行いながら、「主題を生み出し、豊かに構想を練り、効果的に表現できる」生徒を増やす。

5 題材の目標

- (1) 形や色彩、材料などからアニメーションの特徴を捉え、意図に応じて工夫して表す。 （知識及び技能）
- (2) アニメーションの効果を生かして表したいことをもとに主題を生み出し、自分なりに工夫して心豊かな表現の構想を練る。 （思考力、判断力、表現力等）
- (3) 自分の見方や感じ方を深めながら、アニメーションをつくったり、鑑賞したりする活動に主体的に取り組む。（学びに向かう力、人間性等）

6 教材の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 形や色彩、材料、光などが感情にもたらす効果や、総計的な特徴をもとに、アニメーション表現の特徴を全体のイメージや作風で捉えることを理解している。	発 アニメーションの効果を生かして表したいことから主題を生み出し、単純化や省略、強調などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。	態表 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的にアニメーションの効果を生かして作品に表す表現の学習活動に取り組もうとしている。

技 自分の表したい表現に合った材料や用具を選択し、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。	鑑 アニメーション作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、アニメーションとして表すための表現の工夫について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に作品のよさや美しさを感じ取り、アニメーションとして表すための表現の工夫を考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
---	--	---

7 指導と評価の計画(3時間目／全7時間)

時	主な学習活動(○)・手立て(●)・ICT(★)	知	思	態	評価方法等
1	○アニメーションを鑑賞し、その魅力について考える。 種類や仕組みを学び、試作を作る。	知 ↓	鑑 ↓		振り返り
2	●技法の例について整理し、それらを生かし、班ごとにテーマに合わせて試作することで、協働して学べる場を設定する。 ★KOMA×KOMA EX	⋮ 知	⋮ 鑑		
3	○試作を鑑賞し、作品計画(絵コンテ)を書く。	技 ↓	発 ↓	態 表 ↓	ワークシート 作品 振り返り
4	●自分でテーマを設定する。ドライブ上でお互いの進捗や資料やテーマの例などを確認できるようにする。 ★Google ドライブ、スプレッドシート				
5	○表現する手段や使用する素材を選び、個人で制作する。				
6	●それぞれの制作方法についての留意点を事前に示し、表現したいものや扱いやすさなどを加味し、自ら選択できるようにする。 ★KOMA×KOMA EX	⋮ 技	⋮ 発	⋮ 態 表	
7	○上映会を行い、お互いの作品を鑑賞する。 ●他の生徒の作品から得た発見をまとめ、自分の作品を見つめ直ししながら学びを振り返る。 ★Google ドライブ			態 鑑 ↓ ⋮ 態 鑑	鑑賞シート 振り返り

※**知**=知識 **技**=技術 **発**=発想や構想 **思表** **思鑑**=表現、鑑賞に関する思考力・判断力・表現力を示す。

態表 **態鑑**=表現、鑑賞に関する主体的に学習に取り組む態度を示す。

※**示**で囲まれた箇所は学習や指導の改善など生かす評価を **示し** は記録に残す評価を示す。

8 本時の展開(3時間目)

学習内容	指導上の留意点	評価基準と方法
○めあてと本時の流れを確認する。(2分)	・前回の制作や振り返りを取り上げる。	
テーマを伝えるために、どんな工夫ができるだろう？		
○班の試作を鑑賞する。(10分)	・班で使った技法の紹介を行う。 お互いの作品を見た気づき等を引き出し ながら整理する。	★ICT の活用場面 班の試作、参考資料共有 【Google ドライブ】
○技法や制作方法について確認する。(5分)	・試作と同様に5点の技法(①形の変形、 ②形の移動、③出現・消失、④アングルの 工夫、⑤道具の工夫)のいずれかを 取り入れて制作するという条件、今回使用 できる道具や今後の製作時間について 確認する。	発アニメーションの効果を生か して主題を生み出し、創造的 な構成を工夫し、心豊かに表 現する構想を練っている。【ワ ークシート】
○作品計画(絵コンテ)を 構想する。(30分)	・1つのスプレッドシートに個人のワークシ ートを集約し、互いの進捗を確認合える ようにする。作品計画(絵コンテ)には 「テーマ」「流れ」「こだわりたいこと、工 夫したいこと」「準備物」「制作の計画」 を各自入力する。試しながら計画を立て てもよい。 ・その他、計画段階で行き詰まる生徒に対 する手立てとして、他生徒のアイデアや 参考資料の共有、個別の声掛け、テーマ や手本のワークシート、参考用完成動画 の提示(Google ドライブ上での共有) を行う。	<評価の例> A 評価 …テーマを伝えるために、効果 的な技法を取り入れた計画 や工夫する表現について具 体的に記述することができ ている。 B 評価 …テーマを伝えるために、計画 や工夫する表現を記述ことが できている。 or技法を取り入れ、計画や表 現の方法を記述することがで きている。 C 評価 …計画または表現の方法を記 述することができていない、ま たは不足している。
○今日の振り返りを行う。次 回への見通しを持つ。(3 分)	・お互いの立てた作品計画を交流し、今後 の見通しを明確に持たせる。	★ICT の活用場面 作品計画(絵コンテ)、 進捗確認、振り返り 【スプレッドシート】

1 日時・場所 2025年(令和7年)10月29日(水)5校時 体育館

2 学 年 ・ 組 3年4組(計35名)

3 単 元 名 球技 ネット型「バレーボール」

4 単元について

(1) 単元観

ネット型は、コート上でネットを挟んで相対し、身体や用具を操作してボールを空いている場所に返球し、一定の得点に早く到達することを競い合う楽しさを味わうことのできる運動である。

本単元では、第1学年及び第2学年において、ラリーを続けることを重視し、ボール操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開することをねらいとした学習を行なっている。第3学年では、ポジションの役割に応じたボール操作によって、仲間と連携した「拾う、つなぐ、打つ」などの一連の流れで攻撃を組み立てたりして、相手側のコートの空いた場所をめぐる攻防を展開できるようにする。

本単元で扱うバレーボールでは、「レシーブ、トス、アタック」等の三段攻撃を使い、一連の流れを通じて、ボールを操作したり、自己のチーム内で連携したりする力を養うことができる。仲間と連携した動きによって、空いている場所を攻撃したり、空いている場所を作りだして攻撃したり、その攻撃に対応して守ることを中心に自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦を立てたりするなど、チームの仲間と考えを出し合い学び合うことができる単元である。

(2) 生徒観

実施にあたり、学習内容に関わるアンケートを行った。結果は次の通りである。

①バレーボールの授業は好きですか？

好き・どちらかという好き…87.1%	どちらかという嫌い12.9%
--------------------	----------------

②バレーボールは得意ですか？

得意・どちらかという得意…54.8%	どちらかという苦手…45.2%
--------------------	-----------------

③バレーボールの授業で不安なことは？

- ・ミスをすること。・チームの足を引っ張らないか不安。
- ・ケガをすること。・ボールが固いと手が痛くなること。・ボールがぶち当たること。
- ・チーム内で交流が上手くできるか不安。等

④バレーボールの授業でできるようになったらうれしいことや楽しさを感じること。

- ・声かけができて、パスを繋げられるようなバレーができること。
- ・チームみんなで繋いで得点ができたとき。・味方から褒められたとき。
- ・強いスパイクが打てたり、速いサーブが入ったりしたとき。
- ・点が決められたとき。・落ちそうなボールを拾えたとき。・ボールに触れたとき。
- ・チームと連携して相手に返せたときや、作戦を決めてそれができたとき。等

⑤バレーボールの授業に ICT の活用は有効だと思いますか？

有効だと思う…51.6%	どちらかというと有効48.4%	有効でない…0%
--------------	-----------------	----------

本学級では、全員が ICT の活用が有効であると答えている。特に、試合動画の撮影と試合結果分析において、有効であると回答している。実際に、バスケットボールの学習では、試合分析の場面で ICT を活用したことで、どこの空いた空間へ走り込めばパスがもらいやすいかなどの動きが明確となり、生徒の思考は深まった。生徒が ICT を活用する意義を理解して、学習活動に用いたことで、一定の効果があつたと考えられる。

一方で、本学級はバレーボールの授業は好きだが、苦手意識を持っている生徒も半数近くいる。特に、自分のミスでチームに迷惑をかけるという不安で積極的にボールに向かっていけない生徒が一定数いることに対して、支援や配慮が必要だと考える。

また、昨年度までの課題として、ボールを持たないときの動きに課題があり、相手側のコートにボールを打ち返した後、自分のコートに空いた場所を作らないように定位置に戻ったり、ボールや相手に正対するよう動いたりすることができていない生徒が多くいた。昨年度は、ルール上、ボールキャッチを可とするなど変則ルールとしていたため、ボール保持の時間が長かった。つまり、本単元で扱う、一連の流れで攻撃を組み立てるためには、ボールを持たないときの動きに着目させることや、生徒の実態に応じたルールの工夫が必要だと考える。このような工夫があれば、全員が活躍の場を見つけ、仲間と連携してボールが繋がるようなバレーボールを身につけることができる生徒集団であると考えられる。

(3) 指導観

指導にあたっては、次の3点に留意する。

- ①オリエンテーションで、バレーボールの授業における「支える」について生徒から意見を引き出すために ICT を活用する。多様な関わり方と関連させながら、授業の中で自分ができそうなことをイメージさせることで、「する」だけでなく様々な場面で仲間と共同できることがあることを理解させる。生徒の実態に、仲間迷惑をかけたくないと委縮する様子もあることから、互いに練習相手になったり、運動観察等を通して、仲間の課題を指摘するなど教え合ったりすることの価値を、今までの学習を振り返る中で考えさせる。
- ②試しのゲーム等の際に、一連の流れで攻撃を組み立てることに注目させ、役割に応じたボール操作や連携した動きを考えたり、施行したりする場面を意図的に設定する。生徒の多くは、空いている場所をカバーする動きなどの仲間の動きに合わせて行う連携した動きに課題があるため、タブレットで様子を撮影し、チームや自己の動きを視覚的・客観的にとらえ、よりよい動き方についてイメージしやすくさせる。撮影する際、コート全体を把握できるように定点で録画したり、ネット付近の攻防を把握できるようにコートの側面から録画したりと、課題や指導事項に応じて場所を変え、効果的に ICT を活用することを意識させたい。
- ③活動後すぐに動画を確認する場を設定することにより、苦手な生徒もボールを持たないときの動きや、ボールを繋ぐ場所についてイメージしたり、気づきを交流したりすることができると考える。

また、チームの課題や練習方法についてはホワイトボードを活用してまとめ、動きを記録したり、比較・分析したりする場面では、タブレットを活用するなど、目的に応じて ICT 活用場面を設定する。

この単元を通して、全員が活躍の場を見つけ仲間と連携する楽しさや、勝敗を競う楽しさ、また、互いに助け合い教え合うことの喜びを味わわせ、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を図りたい。

5 単元の目標

(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。ネット型では、役割に応じたボール操作や連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。

(知識及び技能)

(2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。(思考力、判断力、表現力等)

(3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。(学びに向かう力、人間性等)

6 単元の観点別評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて具体例を挙げている。 ②練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、言ったり書いたりしている。	○技能 ①ボールを相手側のコートやねらった場所に打ち返すことができる。 ②攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げることができる。 ③ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすることができる。	①選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。 ②自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。 ③球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。	①相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。 ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。 ③互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。

7 指導と評価の計画(10時間)

主な学習活動(○)・ICT(★)

指導計画	時	①	②	③	④	⑤	⑥ (本時)	⑦	⑧	⑨	⑩	
	(分)	5分前集合 → サーブ練習(チャイムが鳴るまで)										
	0	○オリエンテーション	準備運動(各チームでリズムトレーニング)・柔軟運動									
	10	・バレーボールの特性,単元目標の確認 ○目標設定 「仲間と連携し、三段攻撃を使ったゲームを全員で楽しもう!」 ○バレーボールの「支える」を考える ★ICT	○基本技術の確認と練習	○前時の振り返り ○課題発見 練習方法の選択 ★前時の動画分析 ・1本目をどうあげるか。	○前時の振り返り ○次回の練習試合に向けて ○チーム練習 ・基本技術 ・サーブカット ・トス ・アタック等	○前時の振り返り ○試合前のチーム練習 ○試しのゲーム ★動画撮影(3段攻撃を使って)	○前時の振り返り ○課題発見 ★前時の動画分析 ・前回のチームや個人の課題を受けて三段攻撃が使えるように、チーム練習を工夫する。 ○チーム練習 ★練習選択(ドライブ)	○前時の振り返り ○リーグ戦に向けた作戦を考えて、チーム練習を行う。 ★練習選択(ドライブ)	○前時の振り返り ○試合前のチーム練習 ○試しのゲーム ★動画撮影(3段攻撃を使って)	○前時の振り返り ○チーム練習 ・前回のチームの振り返りを元に課題や作戦を考え練習を行なう ○試合(リーグ戦)		
	20		○試しのゲーム ★動画撮影(3回で繋いで返球することを意識する)	○チーム練習 ・基本技術 ・サーブカット ・レシーブなど ★練習選択(ドライブ)	★練習選択(ドライブ)							
30	○チーム決め		○振り返り ★スプレッドシート	○振り返り ★スプレッドシート	○振り返り ★スプレッドシート	○振り返り ★スプレッドシート	○振り返り ★スプレッドシート	○振り返り ★スプレッドシート	○振り返り ★スプレッドシート			
40	○準備運動 バレーボールに必要な体力を高める運動 ★リズム動画 ○ボールを使った体づくり運動											
45												
		片付け・集合・振り返り										
評価の観点	知・技	知①		知②		技②			技①	技③		
	思			①			②			③		
	態		①		②			③				

8 本時の展開(6/10時間)

(1) 本時の目標

動画分析から三段攻撃(レシーブ・トス・アタック)のどこに個人やチームの課題があるかを見つめ、課題に応じた練習を選択して行うことができる。

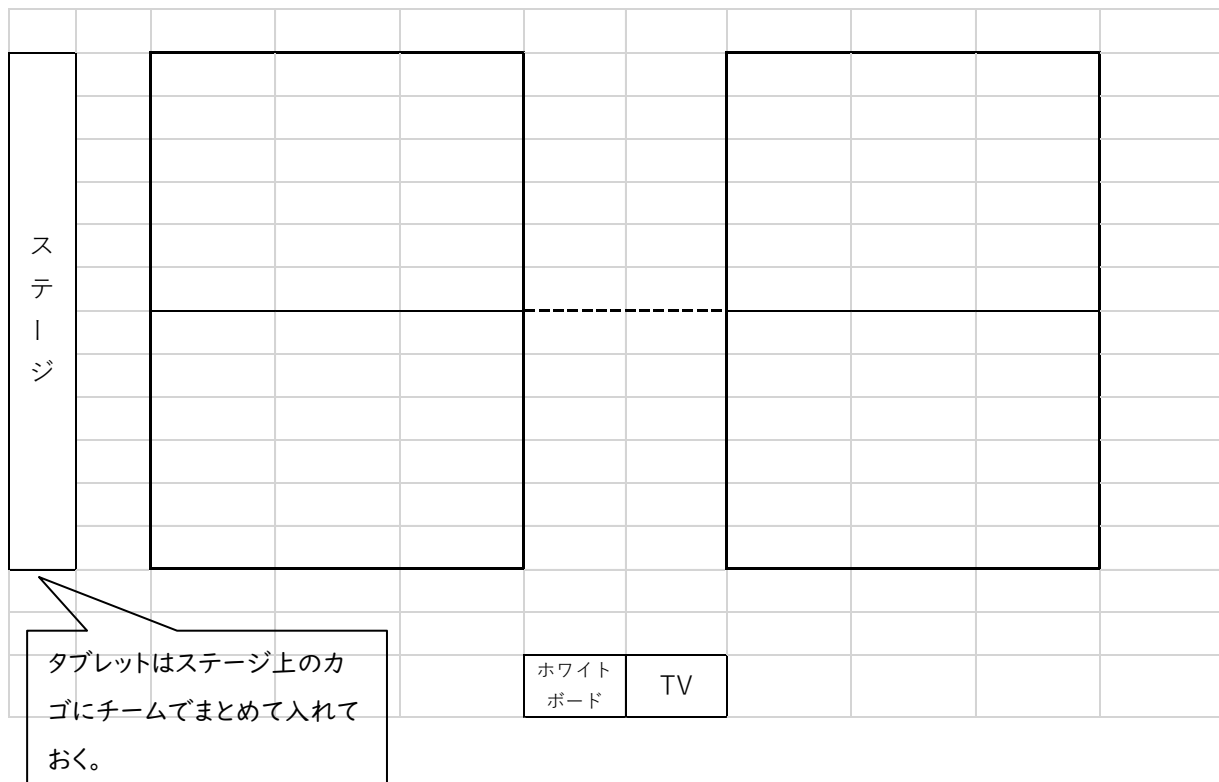
(2) 学習展開

学習内容 ◇発問 ■生徒の発言	指導上の留意点	評価基準と方法
○準備運動 ○あいさつ・点呼・体調管理 ○前時の振り返りと 本時のねらいの確認	・授業開始5分前からチャイムが鳴るまで、サーブ練習を行わせる。 ・バレーボールに必要な肩周辺の柔軟運動やジャンプ運動をリズムに合わせて行わせる。	
三段攻撃のどの部分に課題があるか自分たちなりに分析し、チームに合った練習を実践しよう!		
【個人思考】 ○前時の試合動画を分析し、「レシーブ」「トス」「アタック」について個人の課題やチームの課題、良い動きを書き出す。 ★ICTの活用場面 スプレッドシートに自己やチームの課題や今できていることを書き出す。 【グループ思考】 ○各自考えた内容を共有し、チームに必要な練習を考える。 ★ICTの活用場面 練習方法についてドライブ内にある練習動画を参考に考える。	・教師が前時の試合動画を確認・編集し、ポイントになる動きを抽出しておく。 ・一連の流れを大きく3つの部分に分け、一つ一つの動きに着目させて、課題等を分析するよう助言する。 ・課題と共に、どんな動きができればよいか、またどんな練習をすれば目指す動きに近づけるか等、課題に対する解決方法を考えさせる。 (課題と練習方法の例) ・1本目に、ボールの落下点まで向かうことができず、すぐにボールが落ちてしまう。 →やさしいサーブを打つ練習や、チャンスボールを狙った場所にあげる練習、ボールの方向に体を向けて走りこむ練習などをする。 ・トスをどこにあげるか悩み、動きが止まってしまう。 →ポジションの役割や定位置を確認したり、定位置への戻り方を練習したりする。	【思考・判断・表現】② 自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。 (振り返りシート ・行動観察)

○練習内容を報告 ○チーム練習 ○振り返り ★ICT の活用場面 スプレッドシート記入。 ○あいさつ ○片付け	・3本目の攻撃が決まらない。 →相手コートの空いた空間を狙って、 アタックで返す練習をする。 ・仲間の良い動きにも着目して成果と改善点 を出し合うように指示をする。 ・話し合いがうまく進んでいないチームには、 現在のチームに必要な技術の練習を選択 できるようにアドバイスする。 ・ホワイトボードに、チームの課題と練習内容 を書いて、写真に撮り、ドライブに保管させ ておく。 ・分析ができたチームから報告に来るよう指 示を出し、チームの課題に応じたアドバイ スをする。 ・選択した理由を問い、合理的な解決に向け、 運動の取り組み方を工夫させる。 ・運動が苦手な生徒には、チームで話し合っ た際に出てきたキーワードや選択した練習 方法のポイントをもとに、声をかける。 ・個人の課題には、机間指導の中で個々にア ドバイスを行う。 ・オリエンテーションで考えた、「支える」を意 識して練習させる。 【バレーボールの支えるとは】 ・はげましの声をかける。 ・アドバイスをする。 ・指示の声をかける。 ・球出しをする。 ・動画を撮影する。など ・スプレッドシートに個人の振り返りを書かせ る。 ・次回に向けて、今日の練習の様子について 参考になるチームを全体に紹介したり、生 徒に発表してもらったりする。 ・場や用具の安全に気を配る等、互いに協 力、参画するよう、声をかける。	
--	---	--

9 場の設定

○ 体育館内



○ チーム設定

- ・男女混合
- ・1チーム(7)人 × (5)チーム

○ 基本ルール

- ・男女混合 6 人制で行う。
- ・サーブ権ごとに人を入れ替え、入ってきた人がサーブを打つ。
- ・サーブは入るところから確実に入れる。
- ・2 本目のみキャッチ OK だが、キャッチしたらその場からすぐにトスへつなげる。
- ・ブロックをしても良いが、ネットタッチには気を付ける。

1 日 時 2025年(令和7年)10月29日(水)5校時

2 学年・組 1年2組

3 題 材 名 「製作工程を自ら考えて、安全で適切な製作をしよう(A 材料と加工の技術)」

4 題材について

(1) 題材観

本題材は、材料と加工の技術について実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けることをねらいとしている。また、生活や社会の中から材料と加工の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し解決する力、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切に材料と加工の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することができる題材である。

また、身の周りから問題を発見し、その問題を材料と加工の技術を用いて解決できる製品を自ら構想する。構想したものを完成させるために必要な加工方法、工具、材料、手順などを製作工程表にまとめることで見通しを持って自立した活動ができる。そして、実際に手を動かして加工する活動を通して、創造的な発想を育む。

(2) 生徒観

本学級で行ったものづくりに対するアンケートの結果は次のとおりである。

質問項目	本学級の正答 (肯定的評価)
① ものづくりや製作実習に興味がありますか？	94.1%
② 木材を使って、ものづくりや製作をした経験はありますか？	77.6%
③ 木材を加工する方法について知っていますか？	61.2%
④ 木材を加工する工具・機械について知っていますか？	55.3%
⑤ 木材を加工する手順について知っていますか？	27.0%
⑥ 木材を加工するときに気を付けるポイントを知っていますか？	49.4%
⑦ 指示されたことだけでなく、自分ですべきことを考えて学習することができますか？	43.8%
⑧ 自分のペースで学習することができますか？	67.3%
⑨ 自分で身近な問題を発見し、その問題を解決したことがありますか？	13.1%

アンケートの結果から、本学級の多くの生徒は①ものづくりや製作実習に強い関心を示しており、②実際に木材を使った経験をもつ者も多い。ものづくりに対してとても前向きで意欲のある集団ではある。しかし、③～⑥木材の加工方法や工具の使い方、加工手順などの知識・技能については十分に理解していない生徒が多く見られ、気持ちと必要な知識・技能に大きな差があり、無計画な制作活動になってしまう可能性がある。また、⑦～⑨指示に従って活動する姿勢はあるが、自ら課題を見つけたり、学習を計画的に進めたりする力は十分ではないので、基礎的な知識・技能を身につけるとともに、自ら考え工夫しながら学ぶ主体的な姿勢を育てる必要がある。

(3) 指導観

指導にあたっては、次の3点に留意する。

1. 製作工程表を用いて、構想から完成までの手順や方法を選択させ、試行錯誤を重ねながら自己判断・自己決定する力を身に付けさせる。
2. 前述の内容につまずく生徒には ICT を活用して、ドライブに保存している資料動画を参考にしたり、他の生徒の製作工程表をいつでも見られるようにしたりする。
3. 一人一人製作に対する意識の差・技能の差があるため、個々の学習の進度や課題に応じて個別最適な学びができるような作業環境を用意しファシリテートする。

5 題材の目標

- (1) 材料の成形方法などの基礎的な技術の仕組みを理解し、安全・適切な製作や検査・点検ができる技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 問題を見いだして課題を設定し、材料の選択や成形の方法等を構想して設計を具体化するとともに、製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 自ら問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとする。
(学びに向かう力、人間性等)

6 題材の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 材料の特性等の原理・法則と、材料の加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解している。 ② 適切な図法を用いて、製作に必要な図をかくことができる。 ③ 材料の成形方法などの基礎的な技術の仕組みを理解している。 ④ 安全・適切な製作や検査・点検ができる技能を身に付けている。	① 技術に込められた問題解決の工夫について発見し、調べてまとめることができる。 ② 「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を見だし、課題を設定している。 ③ 材料の選択や成形の方法等を構想して設計を具体化している。 ④ 材料を安全・正確に加工するために、工具や機械の正しい扱い方を考えている。 ⑤ 製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えている。	① 進んで材料と加工の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。 ② 他者と協働して、粘り強く取り組もうとしている。 ③ 自ら問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとしている。 ④ よりよい生活の実現や持続可能な社会に向けて、新しい材料と加工の技術を創造しようとしている。

7 指導と評価の計画(17時間)

時	主な学習活動(○)・手立て(●)・ICT(★)	知	思	態	評価方法等
1	○3年間の学習の見通しをもつ。 ●身のまわりの技術を紹介し、製品に込められた工夫に触			①	ワークシート

	れさせる。				
2 ～ 8	○生活や社会を支える材料と加工の技術について理解するために調べる。 ●身近な「材料と加工の技術」について実践的・体験的な活動を通して、技術の見方・考え方に気付かせる。	①	①	①	ワークシート レポート
(本時) 9 ～ 12	○生活の中から課題を見つけ、課題解決に必要な製品を構想し、完成図を製図する。 ●学級、部活、委員会、家庭など、様々な生活場면을想起して、課題を見つけるようにする。 ●課題を解決できるような製品を考えて、構想するようにする。 ●構想した作品を等角図でかけるようにする。 ★ロイロノートで、様々な生活場面の画像を提示する。	②	②		ワークシート 製図用紙
14 ・ 15	○製作工程表を立案する。 ●製作に必要な工程、工具、機械、材料、作業のポイントなどを製作する前に綿密に計画立てさせる。 ★スプレッドシートで製作工程表を作成し、全体で共有できるようにする。	③	③		スプレッドシート
(本時) 16 ～ 20	○けがき、切断、切削、穴開け、組み立て、表面処理、塗装をして、製作する。 ●ベルトサンダを使うときの注意点を確認する。 ●卓上ボール盤を使うときの注意点を確認する。 ●ワックスを塗装するときの注意点を確認する。 ★さしがね、両刃のこぎり、ベルトサンダ、卓上ボール盤、げんのうの動画を共有する。		④	② ③	ワークシート 行動観察
21 ・ 22	○技術の見方・考え方を働かせて、今までの学習を振り返り、これからの材料と加工の技術について考える。 ●今まで学習したことから自分の問題解決について振り返らせる。 ●持続可能な社会のために、どのような技術が必要か新しい技術について考えさせる。	④	⑤	④	ワークシート

8 本時の展開(16 時間目)

学習内容	指導上の留意点	評価基準と方法
○「今日すること」を決定・確認する。	各自で作業の進行具合を考え、制作工程表を見ながら今日することを決めさせる。 ★ICT の活用場面 スプレッドシートで、「今日すること」を一括管理し、全体で共有する。	
自分の製作工程表に沿って、自分に必要な製品をつくろう		
○未完成の人は製作工程表を完成させる。	- 製品を作るにあたって必要な工程、工具、機械材料、作業のポイントなどを計画立てさせる。 - 先生のチェックを受け、教科書だけでは、分かりにくい具体的なアドバイスを出す。 ★ICT の活用場面 スプレッドシートで、製作工程表を計画立てて、アドバイスシートを確認する。	○製作工程表 【思考・判断・表現③】 A 評価 製作工程表を根拠に基づき、分かりやすく書けている。 B 評価 製作工程表が単純で不十分な箇所がある。
○製品づくりのために作業を進める。	- 自分で計画立てた製作工程表に沿って、自分のすべき作業を確認させる。 - 初めての活動で練習が必要だと思ったら練習できるように、余分に材料を用意しておく。 - 各個人で作業している工程が様々なので、周りに十分気を付けながら活動するように注意する。 製作工程表を作っている人 木材にけがきをしている人 両刃のこぎりで切断している人 切断の練習している人	○行動観察 【思考・判断・表現④】 A 評価 製作工程表通りに、正しい工具で適切な加工方法を考えている。 B 評価 製作工程表通りではないが、加工方法を考えている。 【主体的に学習に取り組む態度②】 A 評価 友達と協力し合いながら、製作しようとしている。 B 評価 一方的な協力関係で、製作しようとしている。
○本時に考えたこと、感じたことを振り返る。	- 本時に行った工程について振り返って、自分の感想やまとめ等を書かせる。 - 一つの工程が終わったら、アドバイスシートに自分なりのアドバイスを書かせる。 ★ICT の活用場面 スプレッドシートに、他の生徒が見て参考にできるようにアドバイスを書いて全体で共有する。	○スプレッドシート 【主体的に学習に取り組む態度③】 A 評価 活動を振り返って、自ら改善点を見つけることができる。 B 評価 活動を振り返ることができる。

1 日 時 2025年(令和7年)10月29日(水)5校時

2 学年・組 2年4組(男子 18名 女子 14名 計 31名)

3 単元名(教材名) Here We Go! ENGLISH COURSE2 Unit5 How Do We Stay Safe?

4 単元(教材)で育成する力

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領外国語における目標(4)「話すこと[発表]」「イ 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。」を受けて設定している。

内容は、主人公の Kota たちが地域に暮らす外国人に向けて、英語の授業で防災ポスターを作成することになり、「命を守るために何を伝えればよいのか」を話し合う場面が描かれている。災害発生時に必要な情報や取るべき行動について考えた後、Tina は家庭で防災バッグの準備を母親と進めながら、「大切なものは何か」を家庭で確かめ合うと場面へとつながっていく。

学習を通して、生徒は自然災害発生時にとらなければならない行動や準備について助動詞 must、have to の表現を使って伝えることができるようになる。また、防災バッグの準備について家庭で話し合ったり、自分の防災バッグについて考え、提案したりする際には、不定詞に代わる It を用いて大切なことや必要だと考えることについて表現できるようになる。

さらに、本校 ALT が来日して間もないことを活かし、日本で起こりうる自然災害を想起しながら、防災バッグの中身として必要なものを英語で提案する必然性をもって伝えることができる単元である。

(2) 生徒観

本学級の授業で行ったアンケートの結果は以下の通りである。

質問項目	肯定的回答
①英語の授業は好きですか。	75.0%
②英語でやり取りをすることは好きですか。	82.1%
③身近な話題について、自分の意見や考えを伝えることはできますか。	41.3%
④英語で書いたり話したりする際に教科書の表現を参考にしていますか。	67.8%
⑤学習端末(Chromebook)を使用することで、学習活動がスムーズに行えたり、理解が深まったりしている。	96.4%

質問項目	回答
⑥英語の授業で一番好きな活動は何ですか	話すこと 42.9%
	聞くこと 21.4%
	読むこと 10.7%
	書くこと 25.0%
⑦英語の授業で一番苦手な活動は何ですか	話すこと 10.7%
	聞くこと 17.9%
	読むこと 7.1%
	書くこと 64.7%

本学級の生徒の多くは、英語の授業や仲間とのやり取りについて肯定的な意識をもっており、アンケートでも「英語の授業が好き」(75.0%)、「英語でやり取りをすることが好き」(82.1%)と答えた生徒が多数を占めた。実際に授業では、与えられたトピックに対して日常的な内容を仲間とやり取りすることに慣れており、楽しみながら会話を続けようとする様子が見られる。

一方で、「身近な話題について自分の意見や考えを伝えることができる」と答えた生徒は41.3%にとどまっており、過半数の生徒は苦手意識を抱いている。これは、そもそも何を言えばよいのか思いつけない生徒と、伝えたい内容はあってもどの文法や表現を使えばよいかわからない生徒の両方が存在することを示している。

さらに「英語の授業で一番苦手な活動」として「書くこと」を選んだ生徒は64.7%と突出しており、特に書く活動への抵抗感が大きい。これは、これまでの授業で「口頭でのやり取りを文字にする」経験が少なく、書くことを負担なく行う雰囲気や機会が十分に用意されてこなかったことが背景にあると考えられる。

ただし、「書いたり話したりする際に教科書の表現を参考にしている」と答えた生徒は67.8%にのぼり、学んだ表現を活用しようとする姿勢が見られる。また、ICTの活用についても「学習活動がスムーズになり理解が深まる」と答えた生徒が96.4%を占めており、学習に積極的に取り組む素地は整っていると言える。一方で、13.7%の生徒が「すぐに Google 翻訳に頼る」と回答しており、自力で試行錯誤するよりも即時的な解決を優先してしまう傾向も確認できる。

本時に扱う助動詞 *must* と *have to* については、既に文構造としては導入されているものの、疑問文や否定文の正確な運用や意味理解にはまだ十分に至っていない。したがって、本時では既習事項を土台にしながら文脈の中で活用できるようにし、段階的に定着を図ることが求められる。

(3) 指導観

本単元の単元観および生徒観、また本校の ALT の特長を踏まえ、指導においては次の2点に留意する。

- ① 帯活動の中で、日常会話に加えて身近な事柄に関する自分の意見を伝え合う機会を増やす。既習の表現を使って伝えられるようフィードバックを行い、表現の幅を広げることを支援する。また、話す活動を自然に書く活動へとつなげることで、書くことへの苦手意識を軽減する。さらに、自己表現の際には安易にネット検索に頼るのではなく、教科書の表現や既習事項を活用して表現できるよう指導する。

友だちとのやり取りでは、自分の考えや意見をもつことを前提とする。友だちの意見を参考にしながらでも自分の思いを表現できるよう、Google スプレッドシートで考えを共有させる。あわせて、書き慣れた表現やスプレッドシート上のメモをもとに意見を整理し、やり取りが行えるようにする。

- ② 防災バッグの中身について伝え合う際には、既習事項を活用して自分の考えを表現できるようスモールステップで学習を進める。教科書の表現やリスニング活動で扱ったスクリプトの表現を示し、多様な表現方法があることを学ばせ、適切に選択して活用できるように促す。特に既習事項の活用が難しい生徒については、Google ドキュメントやスプレッドシートに英文を記録させ、教師や仲間からの助言を受けながら表現を見直し、理解を深める。これにより、伝えることが苦手な生徒も、終末の課題において過去の活動を参考にしながら自分の考えを表現できるようにする。

5 単元の目標

日本に来て間もない ALT に対して、災害時に備えてもらうために、防災バッグの中身として必要なものと必要でないと思うものについて、理由を踏まえ、適切な構成や表現を用いて自分の意見を伝えることができる。

6 単元(教材)の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【話すこと[発表]】 <知識> 助動詞 must、have to、不定詞に代わる仮主語 it を用いた文の構造のきまりや特徴を理解している。 <技能> 災害時に必要なものについて、相手の意見を理解し、自分の意見や考えなどを整理し、助動詞 must、have to、不定詞に代わる仮主語 it などを用いて伝える技能を身に付けている。	【話すこと[発表]】 日本に来て間もない ALT に対して、災害時に備えてもらうために、防災バッグの中身として必要なものと必要でないと思うものについて、理由を踏まえ、適切な構成や表現を用いて自分の意見を伝えている。	【話すこと[発表]】 日本に来て間もない ALT に対して、災害時に備えてもらうために、防災バッグの中身として必要なものと必要でないと思うものについて、理由を踏まえ、適切な構成や表現を用いて自分の意見を伝えようとしている。

[採点の基準]

「思考・判断・表現」について、単元を通して指導したことを踏まえて以下の4つの条件のうち、条件1～3を満たしていれば「b」、全て満たしていれば「a」とする。

- 条件1 防災バッグの中身について必要だと思うものと必要だと思わないものについて意見を伝えている。
- 条件2 条件1の意見の理由を述べている。
- 条件3 防災バッグの中身として友達の考えを述べている。
- 条件4 友達の意見に対する自分の考えを述べている。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	誤りのない正しい英文で話すことができる。	4つの条件を満たして伝えている。	4つの条件を満たして伝えようとしている。
b	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	1～3の条件を満たして伝えている。	1～3の条件を満たして伝えようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

[スピーキングテストにおける具体的な生徒の姿く 思考・判断・表現 >]

評価a	評価b	評価c
I think we have to pack a bottle of water. Because we can drink if we're thirsty. I don't think we have to pack a map. Because it's important to check the location of the evacuation shelter before the disaster. 〇〇 thinks we don't have to pack a bottle of water because it's too heavy to carry. But I don't think so. We need water to live, so we have to prepare water for three days.	I think we have to pack a bottle of water. Because we can drink if we're thirsty. I don't think we have to pack a map. Because it's important to check the location of the evacuation shelter before the disaster. 〇〇 thinks we don't need a bottle of water because it's too heavy to carry.	「b」を満たしていない

7 指導と評価の計画

時	ねらい(○)・主な活動内容(丸数字)・ICT(★)	知	思	態	評価方法等
1	○教科書本文のストーリーの大まかな内容をつかむ。 ①ALT からのメッセージを聞き取り、単元のゴールを理解する。 ②ストーリー全体を通して音声を聞き、ピクチャーカードを場面順に並べる。 ③T-S のやり取りを通してストーリーの大まかな内容を確認する。 ★デジタル教科書を活用し、ストーリーを繰り返し聞いて理解を深める。				学習の振り返りは適宜行わせる 記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。
2	○ストーリーを聞き、聞いた音と文字を一致させる。 ①音声を聞きながら、本文の並べかえワークシートに取り組む。 ②本文を音読し、音と文字の結びつきを確認する。 ★デジタル教科書を活用し、音声を繰り返し聞くことで音と文字の対応を強化する。				
3	○目的や場面に応じて助動詞 must 「～しなければならない」/ mustn't 「～してはならない」の意味・使い方を理解する。 ①自然災害が起きたときの注意事項についてリスニング活動を行い、表現の使われ方に気づく。 ②選択した自然災害について、「しなければならないこと」「してはならないこと」を、理由とともに書く。 ★Google ドキュメントに自分の意見を書く。				
4	○目的や場面に応じて have to / don't have to の意味・使い方を理解する。 ①週末にする必要があることについて、ペアで会話活動を行う。 ②自然災害が起きたときの行動として「する必要があること」「する必要があること」についての自分の考えを理由を含めて書く。				

5	○不定詞に代わる仮主語 it の意味・使い方を理解する。 ①防災セミナーでのやりとりを聞いて、大切だと思っていることを表す表現を学ぶ。 ②防災に備えて必要だと思ったことを伝え合った後、自分の考えを書く。				
6	○本文の内容を理解し、その内容を表す様に音読する。 ①実際のやり取りに使える表現に注目しながら、本文を複数回音読する。 ★デジタル教科書を活用して音読練習を行い、発音やイントネーションを確認する。				
7	○文の構造や防災バッグの中身の提案に使える表現に注目しながら音読する。 ★デジタル教科書で音声を確認しつつ、個別に音読練習を行い、正しい発音やイントネーションを身につける。				
8	○ALT に提案する防災バッグの中身を考える。 ①防災バッグの中身の提案に使える表現に注目しながら、本文を複数回音読する。 防災バッグの中身についてのやり取りを確認し、その理由を含めて書く。 ②防災バッグの中身についてのやり取りを聞き、理由を含めた表現の仕方を確認する。 ③防災バッグ中身として、一番必要なものと必要ではないと思うものを考える。 ★Google スプレッドシートに入力する。				
9	○ALT に提案する防災バッグの中身と、それらを選んだ理由を考える。 ①どのような表現で伝え合っているかに注目しながら、防災バッグの中身についてのやり取りを聞く。 ①ALT に提案するために、自分の意見を伝える英文を考える ★Google ドキュメントに考えた英文を入力する		○	○	Google ドキュメント 行動観察
10 (本時)	○ALT に提案する防災バッグの中身を決定する。 ①防災バッグの中身について友達と意見を交流する。 ②ALT に提案する防災バッグの中身を決定する。 ③友達の意見を含めて、ALT に提案するための表現を考える。 ★Google スプレッドシート、Google ドキュメントを参考にしながら、意見の交流を行う。		○	○	Google ドキュメント 行動観察
後日	○スピーキングテスト ALT に、防災バッグの中身として必要だと思うものと、必要ではないと思うものについて、理由を含めて提案することができる。		○	○	
後日	ペーパーテスト	○			

8 本時の展開

学習内容	指導上の留意点	観点評価(方法)
1. Warm-up Small Talk	○本時に関連する話題について十分に T-S インタラクションを行う。	
単元の Goal: 自分の意見や考えを伝えるには、どのような表現で伝えればよいかが分かる。 本時のめあて: ALT に防災バッグの中身を提案するために、自分の考えを伝え合おう。		
2. 防災バッグの中身について交流する。 ①横ペア ②縦ペア ③自由ペア×2	○後日行うスピーキングテストについて、次の留意点を確認してから開始する。 (注意点) ・自分の考えだけでなく、友だちがどんな考えを持っていたかも理由とともに伝える必要があること。 ・相手が言った意見に対し、自分がどう思うかも必要があること。 (I think so, too. / I agree with you. / I don't think so. / That's a nice idea etc.) ○段階的に進めながら、4人以上と意見交流ができるようにする。 ★ICT 活用場面 スプレッドシートに共有している情報を活用し、様々な意見の友だちと交流できるようにする。	【主体的に取り組む態度】 (行動観察) A: 既習表現を活用しながら自分の意見を伝え、相手の意見に対しての自分の考えを、理由を含めて伝えようとしている。 B: 既習表現を活用しながら自分の意見を伝え、相手の意見に対する自分の考えを伝えようとしている。
3. 防災バッグの中身を最終決定する。	○仲間と交流した内容を参考にし、ALT に提案する防災バッグの中身について最終決定する。 ○自分の提案をよりよくできるよう、また友だちの意見を含めて伝えられるような英文を考えるよう促す。 ○友だちの英文と比較したり、表現を共有したりすることで、よりよく提案する文章を考えられるよう支援する。 ★ICT 活用場面 スプレッドシートに作成中の英文の URL を貼り付け、共有できるようにする。	【思考・判断・表現】 (ワークシート) A: 理由を含めて、必要なものと必要だと思わないものの提案があり、既習の表現を活用しながら友だちの意見を引用して、自分の意見を述べている。 B: 理由を含めて必要なものと必要だと思わないものの提案があり、友だちの意見も述べている。
4. 本時の振り返りと次時予告	○ALT とのスピーキングテストを予告し、ALT が自分の意見に反論した場合、どのように返答するかについても考えてくるよう伝える。	

6 研究協議

[illegible]

7 実践報告（Ⅰ） 江田島市立大柿中学校

主体的な学びに向かう ICT の効果的な活用法

～協働的な学び・個別最適な学びを通して～

江田島市立大柿中学校

報告者 開内 康文

Ⅰ はじめに

現代の教育においては、単に知識を教えるだけでなく、生徒が自ら課題を捉え、深く学ぼうとする姿勢を育むことが求められている。平成29年に告示され、令和3年度より中学校で全面实施された現行の学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が明示されており、生徒一人ひとりの資質・能力の育成が強く求められている。具体的には、知識・技能の定着に加え、それらを活用する思考力・判断力・表現力、さらに学びに向かう力や人間性といった、多面的・多角的な力を育てることが目指されている。

こうした学びの在り方を現実の教育現場で実現するために、文部科学省は令和2年度から「GIGA スクール構想」を推進し、全国の学校において高速通信ネットワークの整備と、生徒一人一台の学習者用端末の導入を進めた。これにより、個別最適な学びと協働的な学びを支える物理的な ICT 環境が全国的に整った。しかし、環境が整備されたからといって、生徒の学びが自動的に変化するわけではない。ICT の効果的な活用を通して学習の質を高めるためには、教師自身の指導観・授業観の転換と、明確な目的意識をもった授業設計の工夫が不可欠である。

さらに、令和5年度からは「リーディング DX スクール事業」がスタートし、GIGA スクール構想で整備された ICT 環境を土台に、学校教育全体のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進している。この事業は、学習の個別化と協働化を一層高度化させるとともに、教員の指導・評価の革新や校務の効率化を通じて、教育の質的な転換を図ることを目的としている。端末やアプリの活用に留まらず、教育の在り方そのものを問い直すこの取組は、今後の全国的な教育改革の先導モデルとして期待されている。

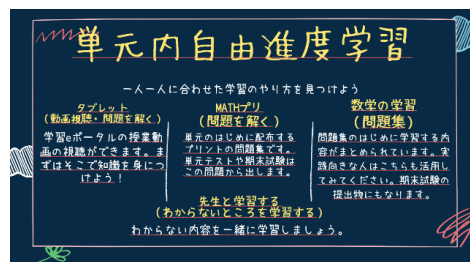
このような背景の中、本中学校区の大古小学校とともに本校では、令和5年度から2年間、リーディング DX スクール事業を中学校区で受けて取り組み、江田島市中学校教育研究会視聴覚部会を通して、江田島市内にも普及を図ってきた。その視聴覚教育部会では、「主体的な学びに向かう ICT の効果的な活用法」を研究主題として掲げ、ICT を手段として位置づけ、生徒一人ひとりの学びをより豊かにすることを目的に実践を重ねてきた。本報告では、これまでの取組を踏まえ、具体的な工夫や授業での生徒の変容を紹介するとともに、ICT の活用が生徒の思考や対話、学びへの意欲にどのような影響を与えたのかについて整理し、今後の授業づくりに生かすための課題や可能性について考察する。

2 ICT の効果的な活用実践について

（Ⅰ）個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指した実践

①単元内自由進度学習の実践（数学科等）

単元内自由進度学習とは、1980 年代初頭に「一人ひとりの個性に合わせた深い学びを実現する教科の一人学び」を目指して始まった実践で、授業の進度を生徒一人ひとりに任せ、自分で最適だと思う学習計画を考え、自らの判断と責任で自由に学習を行う授業手法である。従来の一斉授業とは異なり、生徒が主体的に学習をマネジメントすることを特徴とする。本校の数学科では以下のように実践している。



(ア) 「学びの地図」を用いた学習計画(数学科の実践例)

単元開始時、生徒は「学びの地図」と称する単元全体の学習内容および目標をまとめたプリントを確認し、以下の要素について各自で計画を立案する。

学習方法	Chromebook を用いた解説動画視聴、教員作成の問題プリント「MATH プリ」への取組、市販の問題集の活用、教科書を読むなど、提示された複数の選択肢から、自身の理解度や目標に適した方法を選択する。また、問題の難易度についても生徒一人ひとりが自ら選択して取り組む。
学習形態	個別学習、他者との協働学習、教員との個別学習の中から、その日の学習内容や目標に応じて生徒自身が決定する。
学習場所	教室、自学自習室、空き教室など、学習に集中できる環境を生徒が選択できるように設定し、学習意欲の向上と学習効率の最大化を図る。

学びの地図		2章 平方根				
単元の目標		☐ 平方根の意味を理解し、ある数の平方根を求めることができる。 ☐ 根号を含む式の乗法や除法・加法や減法の計算方法を理解する。 ☐ 数の平方根を具体的な場面で活用することができる。				
【注意事項】：学習方法は、①学びポケット、②教科書・問題集をする、③先生に聞く、④仲間と学習する						
日付	めあて	学習方法	教科書	数学の学習	MATHブリ	学んだこと、大切な用語・式、キーワード
1 6/10	導入	④	P41～P43	P32 P33	①②	120を素因数分解 25と→ $\sqrt{\quad}$
2 6/11	1 平方根ってなに？ 2 平方根を求める問題	②	P44 P45			③④
3 6/12	3 $\sqrt{\quad}$ を使わずに表す 4 平方根と $\sqrt{\quad}$	②	P46	P34 P35	③④	$(\sqrt{a})^2 = a$ $(-\sqrt{a})^2 = a$ 平方根が $\pm$ ある $\sqrt{\quad}$ に直す
4 6/13	5 $\sqrt{\quad}$ の大小 6 $\sqrt{\quad}$ の大小 応用問題	①	P47			無理数 (1.4142)
5 6/14	7 $\sqrt{\quad}$ 10までの覚え方 8 有理数と無理数	①	P48			無理数 (1.4142)



動画を視聴してノートを取る生徒



教員と一緒に学習する生徒

(イ) 学習の実施と振り返り

生徒は自ら立案した学習計画と教員による確認と評価に基づき学習を実践する。教員は巡回指導や個別対応を通じて生徒の進捗状況を把握し、必要に応じて助言や支援を行う。学習後には生徒自身による振り返りを必須とし、「今日の学習で学んだことは何か」「学習の仕方は目的に合っていたか」「次回の学習に向けてどのような改善が必要か」といった自己評価を行う。この振り返りを通じて、生徒は自身の

学習状況を客観的に把握し、次の学習計画に反映させることで、自己調整学習能力の向上を図る。また、教員は生徒の振り返りの記述及び学習ノートを毎時間確認することで、生徒一人ひとりの学びの状況を把握し、次時の授業における指導や支援を行う。

(ウ) ICT による学びの変化

単元内自由進度学習では、多くの生徒が Chromebook を活用し、解説動画を視聴しながらノートを取るなど、自分のペースで学習を進めている。生徒は理解度に応じて動画を繰り返し視聴したり、わからない箇所を教科書で確認したり、友達との対話を通して理解を深めたりしている。

このように個別に学習を進めることで、教師は生徒一人ひとりの状況を把握しやすくなり、支援が必要な生徒に対して個別に丁寧な指導を行うことができる。また、質問に来た生徒に対しても、時間をかけて共に考えるなど、よりきめ細やかな対応が可能となった。

② 実技教科における録画機能を活用した評価・指導の改善（音楽科）

音楽科における演奏技能の評価と指導において、Chromebook の録画機能を活用した実践を行った。従来の実技テストは、全体に課題を与え、一人ずつ別室で演奏を行う形式であったが、この方法では生徒の不安が大きく、また教員が一斉指導と個別評価を同時に行うことに困難があった。

そこで、生徒が Chromebook で演奏を録画し、その中から自分のベストパフォーマンスを選んで提出する方法に変更した。この取組により、以下の効果が得られた。



(ア) 教員側の変化

授業後にじっくりと個々の演奏を視聴・評価することが可能になり、技能の到達度を的確に把握できるようになった。録画という記録があることで、評価の根拠も明確となり、より適切な評価につながった。

(イ) 生徒側の変化

一定時間内で何度でも録画に挑戦できるという仕組みが、主体的に学習に向かう動機づけとなり、練習の質と量の両面で向上が見られた。また、Chromebook 上で教員が用意した練習動画を繰り返し視聴することで、自分に適した学び方を選択し、技能の習得に向けて意欲的に取り組む姿が多く見られるようになった。

本実践は音楽科に限らず、保健体育等の他の実技教科でも実践可能な取組であり、一人一台端末が整備されたことにより個別最適な学びと丁寧な個別指導が実現できた。

③ 「他者参照」を取り入れた個別最適な学び（理科）

理科の学習において、一人一台端末（Chromebook）を活用し、「他者参照」を取り入れた個別最適な学びの実現に取り組んだ。従来の班活動中心の問題解決学習では、1人で考えること

が難しい生徒が他の班員の意見に流される傾向があり、自ら思考を深める機会が十分に確保できていない課題があった。

そこで、まず Chromebook を用いて Google Classroom 上に課題を個別配信することで、生徒一人ひとりが自分のペースで学習活動に取り組む環境を整えた。課題に対しては、仮説を立てたうえで自分なりの考察を行い、スライド形式でまとめさせることで、自分の考えをしっかりと持つことにつながった。

Aのように初期微動が伝わるのが速く主要動が大きく伝わっているものが震源の近くで、Cのように初期微動が伝わるのが遅く主要動があまり大きくないものが震源から遠い所だと考えられる。

全ての図をまず初期微動継続時間だけを見て比べたときに震源に近ければ初期微動継続時間が短かく揺れが伝わるのが速い。そう考えると震源に近い順に**b→a→d→c**となった。また初期微動継続時間に加え、主要動が震源に近くなれば大きくなる。そう考えても順は**b→a→d→c**となった。

生徒の記述(左が個人思考、右が他者参照後)を見ると他者参照によって、震源からの距離が何によって決まるかを見だし、自分の言葉でまとめたものになっている。

その後、他者の考えを Chromebook 上で閲覧・参照する「他者参照」の時間を設けることで、異なる視点に触れる機会を確保し、自分の考えだけではうまく説明できなかった生徒が友達の意見を参照することで考えを深めることができた。

例えば、地震に関する単元では、地震計の記録から震源までの距離を考察させる課題において、生徒は自身の仮説を立てた後、他者のスライドと比較することで、新たな視点や誤りへの気づきを得ることができた。最終的には、電子黒板を用いた全体交流で学びを共有し、振り返りを行うことで学習を定着させている。

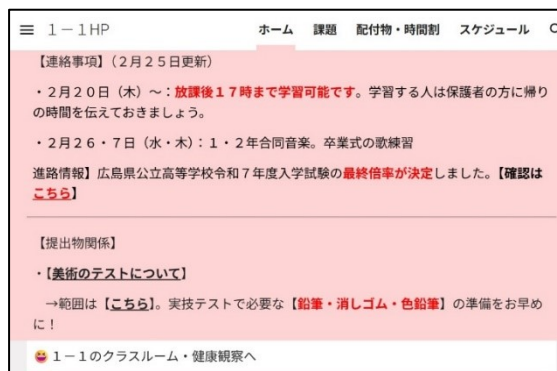
このように、Chromebook を活用することで、生徒の考えを「記録・共有・振り返り」する一連のプロセスがスムーズになり、個別最適な学びと他者の学びから学ぶ協働的な要素が効果的に融合された。また、自己の考えをもとに他者の考えを参照するというプロセスは、深い学びの実現にもつながっている。

④ Google Site を活用した主体的な行動を促す仕組みづくり

Google Site を活用して学級ホームページを作成し、学級内の連絡事項、日程、配付物、授業に関連する Classroom やアプリへのリンクなどを一元化して掲載する取組を行った。生徒は Chromebook を活用し、いつでもどこでも情報にアクセスできるようにすることで、日々の学校生活や学習活動において主体的に行動する力の育成を図っている。

例えば、朝の会や帰りの会などで配布されるプリント類、連絡事項をすべて学級ホームページに集約することで、生徒自身が必要な情報を自ら確認し、行動に移す習慣が定着しつつある。加えて、欠席や忘れ物などがあった際にも、自分で必要な情報を検索・確認できるようになったことで、教員や保護者の手を借りずに解決しようとする姿勢が育まれている。

このような情報環境を整えることで、学びの場面においても、Chromebook を使って



Classroom や関連アプリにスムーズにアクセスし、課題に取り組む際の準備や進行を生徒自らがマネジメントできるようになった。特に、ICT を「与えられるもの」ではなく「活用するもの」として捉える意識の変容が見られ、情報をもとに次の行動を自律的に選択・実行する力へとつながっている。

(2) オンラインを活用した授業実践

① SSR(スペシャルサポートルーム)における活用として、他校の不登校及び別室登校生徒同士をオンラインでつなぎ交流する授業

SSR(スペシャルサポートルーム)において、他校の不登校や別室登校の生徒同士をオンラインでつなぎ交流する授業を実施した。Chromebook とオンライン会議システムを活用することで、安心できる環境から他者とつながり、学びや体験を共有することが可能となった。特にこの時は関東や東海など他県の生徒ともつながり、生徒は交流の幅を広げ、社会的な関わりへの意欲を高めることができた。



② 小中合同の特別講師による授業をオンラインで受講する実践

小中合同の特別講師による講演会を中学校体育館で実施するにあたり、移動が難しい小学校中学年の児童に対して、Google Meet を用いてオンライン配信を行った。従来は参加が困難であった児童にも、



左：講演会場

右：リモートで視聴する小学生

Chromebook を活用することで安全かつ確実に受講の機会を提供することができた。時間や場所の制約を ICT で補い、より多くの児童生徒に学びの機会を保障することができた。

③ 海外の学校とのオンライン交流授業

ギリシャの中学校とのオンライン交流授業を Google Meet で実施した。生徒は事前に江田島市を紹介する英語クイズを作成し、相手に伝わるよう工夫しながら準備を進めた。当日は、自己紹介やクイズ出題、質疑応答を通して英語での表現力を高めるとともに、外国の生徒と直接交流することで英語を使う意欲を高め、異文化理解を深めることができた。Chromebook を活用したリアルタイム交流により、主体的に学ぶ態度が育成された。



(3) ICT の効果的な活用に向けて行った環境整備

① 教室内充電環境の整備

現在、生徒はChromebookを毎日持ち帰り、家庭学習や委員会活動に活用し、充電をして学校に持参している。しかし、家庭で充電ができていないこともあり、授業での活用や学習において支障をきたすことがある。また、端末のバッテリー容量低下の問題により、充電していても授業で多く活用するとバッテリーが持たない事例も見られるようになった。前者については教員の指導によって改善を図るものであるが、一人一台端末を文房具のように日常的に活用するほど、後者のような問題は散見されることになる。そうした状況を防ぐために、教室でも適宜充電ができる環境を整備した。



具体的には、教室に複数ポートがある充電ハブを設置し、昼休憩などに充電できるようにした。これにより、生徒が授業中にバッテリー不足で授業に参加できない状況がなくなり、ICT 機器を安定して活用できる環境が実現された。

② 配信専用機器の導入によるリモート学習環境の充実

本校では、特別支援学級（SSR）の生徒が文化祭などの行事の様子を視聴できるよう中継を行ったり、インフルエンザ等の出席停止期間中で体調が回復した生徒にリモートで授業に参加できるようにしたりする取組を行っている。

従来は Chromebook を活用していたが、移動が容易でないことなどの課題があった。そこで、配信専用のスマートフォンを用意し三脚を用いて設置することで設置場所にも困らず、Google Meet を使った配信・リモート授業が容易に実施できるようになった。

この環境整備により、全校集会やPTA教育講演会もリモートで実施することへのハードルが下がり、様々な場面で ICT を活用した柔軟な教育活動が可能となった。配信専用機器の導入は、ICT 活用の幅を広げ、多様な学習ニーズに対応するための重要な基盤となっている。



3 おわりに

本報告では、「主体的な学びに向かう ICT の効果的な活用法」を研究主題として取り組んできた実践について、具体的な事例を通して整理してきた。単元内自由進度学習における個別最適な学びの実現、実技教科での録画機能を活用した評価・指導の改善、理科における「他者参照」を取り入れた協働的な学び、Google Site を活用した主体的な行動を促す仕組みづくりなど、各教科・領域での多様な実践を通して、ICT が単なる道具ではなく、生徒の学びの質を向上させる重要な手段となることが確認できたことが成果である。

特に重要な成果として、生徒が自分のペースで学習を進めることができる環境の実現、教員による個別指導の充実、生徒同士の学び合いの促進が挙げられる。これらは、学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に直結するものであり、ICT の活用が教育の質的転換に寄与していることを示している。

一方で、実践を進める中でいくつかの課題も明らかになった。端末のバッテリー問題に代表される技術的な課題については、教室内充電環境の整備により一定の解決を図ることができたが、今後も継続的な環境整備が必要である。また、ICT を効果的に活用するためには、教員自身の ICT スキルの向上と、授業設計における明確な目的意識が不可欠であることも再確認された。

今後の展望として、これまでの実践で得られた知見を他の教科・領域にも広げていくとともに、生徒の学習データの蓄積・分析による個別最適な学びのさらなる充実、地域や家庭との連携を深める ICT 活用の可能性についても検討していく必要がある。また、リーディング DX スクール事業の取組とも連動させながら、学校全体のデジタルトランスフォーメーションを推進していくことが求められる。また、AIの発達によりAIの教育への活用の可能性についても研究を深めていくことが求められる。

ICT は教育を変革する可能性を秘めているが、その効果を最大化するためには、技術的な環境整備だけでなく、教育観・指導観の転換と継続的な実践の積み重ねが欠かせない。私たち教員一人ひとりが、生徒の学びをより豊かにするという共通の目標に向かって、ICT を有効に活用していくことが、これからの教育の発展につなげていくことが重要である。

7 実践報告（2） 三原市立大和中学校

個別最適な学び・協働的な学び × ICT ～生徒の主体的な学びの実現に向けて～

三原市立大和中学校

報告者 岡 本 克 哉

1 はじめに

GIGA スクール構想によって、1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークが整備された。これにより、「個別最適な学び」と「協働的な学び」がより一層充実したものになることが求められている。

三原市教育研究会視聴覚部会では、令和4年度よりこの研究テーマを掲げ、「1人1台端末とクラウド環境の特性を生かした目指す学習環境」を図1のように整理した。本稿では、三原市立大和中学校・久井中学校の1年生を対象に実施した技術分野（内容B 生物育成の技術）で実践した事例を報告する。

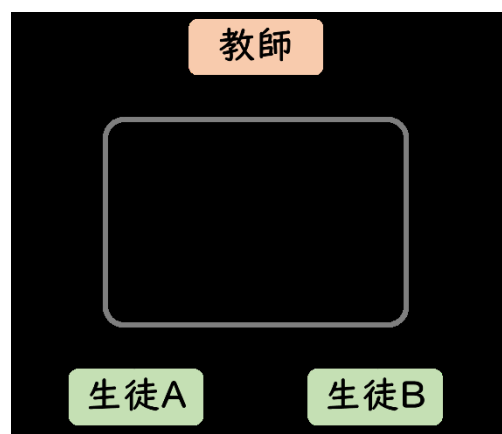


図1 目指す学習環境

2 実践事例

(1) 生徒の実態

Q1 小学校で育てた生物は、クラスみんなで同じものを育てましたか？

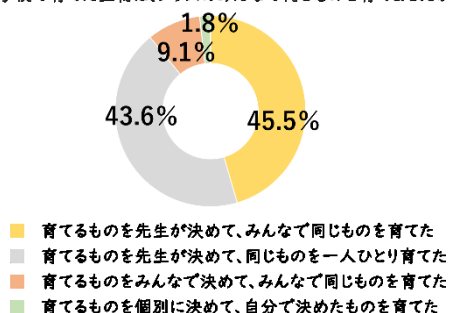


図2 Q1 アンケート結果（題材実施前）

Q2 小学校で生物を育てた際に、どのように育てましたか？

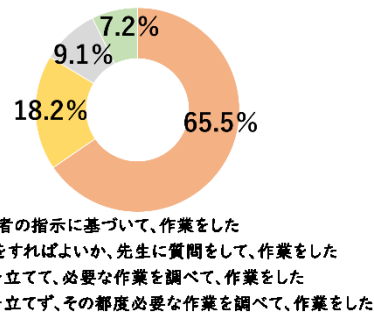


図3 Q2 アンケート結果（題材実施前）

小学校で生物を育てた際の学習状況について把握するために、題材実施前にアンケート調査を行った。その結果を図2および図3に示す。図2および図3から、「先生が決めたものを先生や保護者の指示に従って育てた」生徒が多いことがわかる。そこで、本題材で目指す主体的に学習に取り組む姿を「自らの栽培目標・計画を立て、目標の達成に向けて、自分で必要な作業を調べ、自分から取り組んでいる姿」とした。

(2) 学習内容

生徒の主体的な学習を促すために、ナス、ピーマン、トマトの作物の中から自分が栽培したい作物を選択する。そして、育成環境の調節方法等、基礎的な技術の仕組みについて理解し、栽培の目標を設定し、技術の見方・考え方を働かせながら、計画的に作物の育成環境を調節したり、成長を

管理したりする。生徒が育てる作物の成長速度はそれぞれ異なるだけでなく、社会からの要求、安全性、環境負荷、経済性等を踏まえて、設定する目標も生徒によって異なる。そのため、生徒一人一人が、成長や目標に合わせて施す作業の内容もタイミングも異なる。そこで、7時間(約2か月)を複線型の授業で実施した。

(3) 学習環境

生徒の主体的な学習を促すために、多様な作業や学習が自分で進められるように環境を整えた。この学習を進めるための学習環境を図4に示す。デジタルの環境としては、Google ドライブおよび Classroom を用いて以下の情報を共有した。

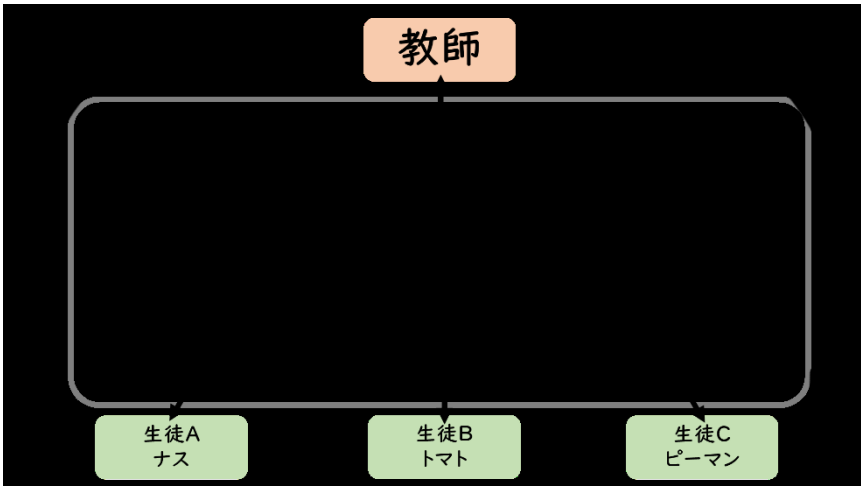


図4 学習環境

① アナログ環境

育成環境の調節方法等、基礎的な技術の仕組みについて理解するために、図5に示す教科書内容をまとめるためのワークシート(紙)を用意した。そして、生徒が成長や目標に合わせて作業を実施するために、図6に示す特徴の異なる肥料や支柱などを数種類用意した。なお、肥料や支柱の特徴についてまとめたものは、Classroom の中に資料として投稿し、自由に閲覧できるようにした。

三原市が使用する教科書には特定の作物については、デジタルコンテンツを含め栽培方法の情報が記載されている。しかし、今回の授業で扱う全ての作物の育て方に関する情報が同等程度記載されていない。そこで、複数の作物の育て方がまとめられている書籍を数冊用意し、生徒が自由に閲覧できるようにした。

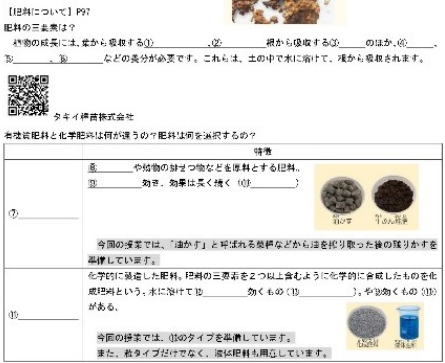


図5 ワークシート(一部抜粋)



図6 肥料の選択肢

② デジタル環境

教科書に記載されている情報の偏りを無くすために、教師が一般的な育て方や栽培のポイントが記載されている信頼性の高い web サイトを集めておき、スライドにリンクを貼り付けて生徒に情報提供を行った。

生徒は、栽培の目標、選択枝を選んだ理由や実施した作業内容を図7に示す栽培計画・記録に入力した。なお、ドライブ上で他の生徒のファイルを参照できるようにする際には、生徒指導上の問題を無くすために、他の生徒のファイルは閲覧権限のみを与える形にした。

解決を目指す課題(日本・世界の食料問題を踏まえて、この栽培でどんなことに取り組むか、具体的に記述する) 「おいしい野菜を育てる」を育てるだけでなく、社会・安全・環境・経済の視点も踏まえて、								
安全でみずみずしいパプリカを育てたい！								
最適化に向けて								
項目		例)●●の作業の時に、○○することで甘みを増すようにする。 ●●の作業の時に、選択枝○○を用いることで、配慮する。						
社会性(おもしろ、数を増やしたい！)		パプリカだから、色味を鮮やかでツヤツヤにするために日光があたる場所に置く。						
安全性(人が口にしても大丈夫なものを育てたい！)		農薬は使うけどたくさん使うのではなく適量を心がけ、なるべくつぎすぎない物を使う。						
環境性(作っている間も、終わった後の農薬も含めて、エコにやりたい！)		金属の支柱を使い、繰り返し使えるようにする。						
経済性(なるべくお金をかけずに育てたい！)		なるべく高価なものは使わないように配慮するが、その分野が病気にならないように適度な水やりを心がける。						
栽培内容								
No.	日付	育丈・果実の数	作業名	どのような目的でその作業を行ったのか？	選択枝 摘芽等の作業によっては選択枝が無い場合もある	選択枝を用いた理由 どのポイントを大事にしたのか？ どうして目的で使おうと思ったのか？	作物の様子(写真を入れよう)	やってみてわかった こういうのがあれば、良いのにな
1	2025/05/22	育丈:25cm 果実:0個	追肥	雨が多く太陽があまり顔を見せていなかったのでも元気がなくなっているかと思ったからです。	【肥料】化成肥料	一番最初の肥料だったので、一応高い価格なものにしました。更にグラムあたりの値段が安かったからです。		水やりをするとき量がわからなくなってしまうのでやりたい
		かん水	土の湿りがちよつと足りないかと思ったからです。					
2	2025/05/29	育丈:24cm 果実:0個 支柱150円	摘芽	脇芽をつもと栄養が偏らずに上の大きな芽にたぐの葉がなるかと思ったから。	【支柱】金属製	再利用することができるから。		農薬が効果があっても匂いがきつかったり、人に害があったりするものばかりなので、害が少ない物が欲しいです。
		農薬散布	カメムシがビーン系にたくさん群がっていたので農薬散布をしました。	【農薬】木酢液	カメムシが獲らなかったのでカメムシでも十分効果のある木酢液にしました。			
3	2025/06/05	育丈:28cm 果実:6個	農薬散布	先週の農薬では足りなかったのかたくさん増えていて強いものがないかと思ったのでオルトランを散布しました。	【農薬】オルトラン	強い薬っぱをこれ以上食べて欲しくなかったのでオルトランにしました。		カメムシを取りやすいピンセットがあったら最高です。
		摘芽	葉っぱがシナシナなのでなるべく大きな葉っぱに元気がなくなっているかと思ったので脇芽を取りました。		脇芽が成長していたので定期的に切ったほうがいいと思ったから。			

図7 栽培計画・記録

(4) 学習の様子

この題材における生徒の学習の様子を図8に示す。毎時間授業の始めには、作物の様子を確認、撮影することを共通の課題として、その後の学習の進め方は生徒に委ねた。

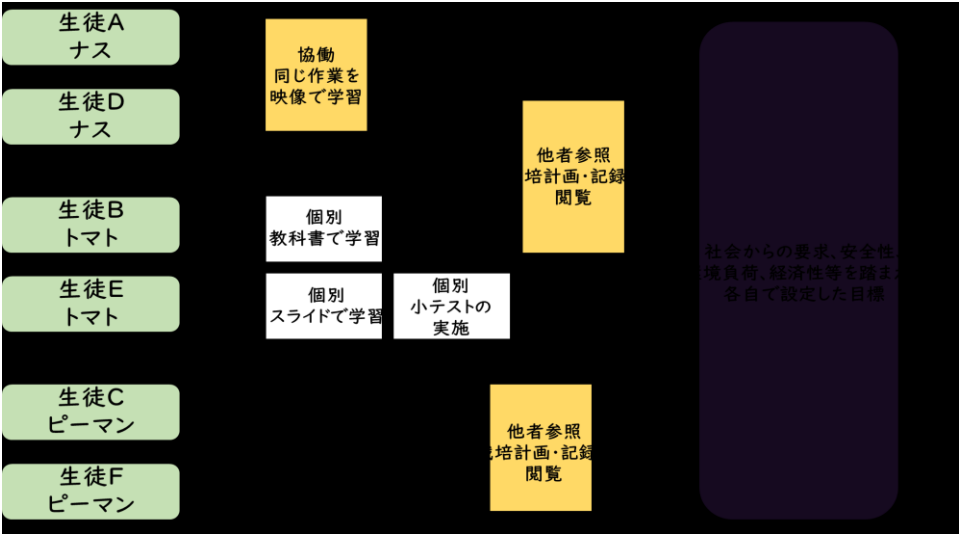


図8 学習の様子

① 生徒 A の場合

生徒 A の学習の様子を図9に示す。生徒 A は作物の様子を確認したのち、支柱を立てる必要があると感じた。そこで、他の生徒とともにスライド内の映像資料を視聴し、一緒にポイントを確認したのち、作業を実施した。

② 生徒 B の場合

生徒 B の学習の様子を図 10 に示す。生徒 B は作物の様子を確認したのち、今週は特に大きな変化が見られなかったため、本時で実施する作業はないと考えた。そこで、今後に向けて、やるべき作業の知識を得ることを優先して、スライドで学習を進めていた。

③ 生徒 C の場合

生徒 C の学習の様子を図 11 に示す。生徒 C は作物の様子を確認したのち、摘果するかどうかについて教員に相談に来た。そして、教員は同じ作物を育てている生徒 F が前時に摘果していたことを伝え、生徒 F の栽培計画・記録を参照して、生徒 F がどのような目的で作業をしていたのか参考にして自分の作業を続けていた。



図9 生徒 A の学習の様子

図 10 生徒 B の学習の様子

図 11 生徒 C の学習の様子

(5) 学習の結果

① アンケート結果

題材実施後にアンケート調査を行った。その結果を図 12 に示す。図 12 から、本題材で目指す「自らの栽培目標・計画を立て、目標の達成に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる姿」の割合が増加していることがわかる。

Q 今回の学習では、どのように育てましたか？

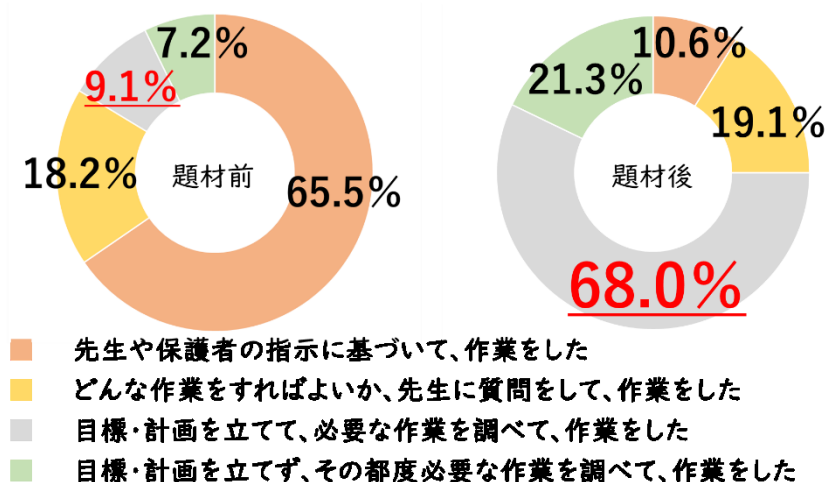


図 12 アンケート結果(題材実施後)

② 生徒の振り返り

- ・ トマトが倒れそうだったので、スライドの動画と同じトマトを栽培している〇〇さんの栽培計画を見せてもらって、誘引をしました。同じ作業でも、〇〇さんとは目標が違うから使う支柱の種類が異なっていました。
- ・ 小テストで満点を取れなかったので、プリントを見返して、繰り返し解いた。最後は、満点をとることができた。また、自分とは違う目標の場合、どの選択肢を使えば良いか考えることができた。
- ・ 映像では、脇芽がどれかわからなかったので、同じピーマンを育てている友達に教えてもらいながら、摘芽をしました。そして、その後に解いた小テストでも脇芽がどれか区別することができました。
- ・ 最近、自分は「自分のトマトはこうしたらいいな」や「友達にこうしたらいいよ」など自分の知識を使って育成をできていてよかったです。これから育てるときなどにも、この知識をしっかり利用していきたいです。

生徒の振り返りからも、アナログ環境やデジタル環境を利用しながら、主体的に学習に取り組んでいたことがわかる。また、学習の中で協働的に学習を進めていたことがわかる。

3 今後に向けて

(1) デジタルとアナログの選択肢の充実

学校における ICT 端末の活用が求められる一方で、発達段階によっては具体物を直接見たり、手で直接操作したりすることを必要とする生徒もいる。今後の課題として、こうした多様な生徒に対応するために、デジタルとアナログの選択肢を柔軟に提示する必要があると考える。今後、他の題材においても個々の特性やニーズに合わせて、最適な学習方法を選択できる環境を整えていきたい。

(2) 教育活動全体を通した ICT の活用および情報活用能力の育成

今回の実践では、学年が1年生であり、技術分野の学習の最初の題材であることを考慮し、インターネットで入手可能な情報を教員が資料にまとめて生徒に提供した。今後は、技術の見方・考え方を働かせ、それぞれの選択肢の特徴を自分で調べて評価・選択する力を身に付けさせていきたい。そのためには、技術分野の授業だけでなく、各教科の中で、多様な情報検索を経験させ、課題の解決に必要な信頼性の高い情報を見つける力を身に付けさせる必要がある。また、集めた情報を見方・考え方を働かせて、整理・分析する力を身に付けさせる必要がある。今後は、各教科等と連携をはかりながら、生徒の情報活用能力を育てていきたい。

(3) CBT の活用

生徒の感想によると、繰り返し小テストを受験できることは、学習意欲につながっていることがわかった。CBT で実施することにより、教員の採点業務を減らすだけでなく、粘り強く学習に取り組むことにもつながったと考える。しかし、今回の CBT では、GoogleForm を用いて作成したため、解答方法が限定されていたり、三原市の規制の都合上、映像問題を出題することができなかつたりした。今後は、MEXCBT を用いて、映像を用いた問題の出題や多様な解答方法の設定を実施していきたい。

8 講評

広島県教育委員会 義務教育指導課 指導主事 有田貴信 様

[illegible]

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

9 講演

演題「主体的に学習する生徒を育むための授業改善と教育 DX」
東京学芸大学大学院 准教授 登本洋子 様

演題「主体的に学習する生徒を育むための授業改善と教育 DX」
東京学芸大学大学院 准教授 登本洋子 様

[illegible]

のぼりもと ようこ

登本 洋子 先生のご紹介

登本洋子先生は、東北大学大学院情報科学研究科にて博士（情報科学）を取得され、情報教育と探究学習を専門とする教育工学研究者です。中学・高校における情報科教員として12年間勤務された後、桐蔭学園で探究統括主任として探究学習の実践と指導に尽力され、現在は東京学芸大学の次世代教育研究推進機構「高校探究プロジェクト」に所属されています。

文部科学省初等中等教育局視学委員も兼任し、GIGAスクール構想下での1人1台端末を活用したICT教育や、生成AI・情報活用能力を含む探究型教育に関する研究を推進されています。

著書に『学びの技 14歳からの探究・論文・プレゼンテーション』（玉川大学出版部、2014年）などがあり、教員養成と学校現場の教育改革に貢献する教育者としてご活躍されています。

10 閉会行事

◇開催校挨拶

福山市立城東中学校 校長 藤井 規光

◇次期開催地挨拶

広島市立牛田中学校 校長 葛籠 直人

◇閉会の辞

《開催校挨拶》

福山市立城東中学校 校長 藤井 規光

《次期開催地挨拶》

広島市立牛田中学校 校長 葛籠 直人

Ⅰ Ⅰ 広島県中学校視聴覚教育研究大会の概要

昭和41年度(第15回)	三原市第三中 {幼・小・中合同開催}
昭和42年度(第16回)	福山市幸千中 {兼 第18回中国大会}, 福山市培遠中
昭和43年度(第17回)	因島市三庄中 (東部) 安芸郡船越中 (西部) 高田郡誠和中 (北部)
昭和44年度(第18回)	芦品郡常金中 (東部) 佐伯郡大野中 (西部) 双三郡三良坂中 (北部)
昭和45年度(第19回)	佐伯郡大野中 {兼第21回中国大会}
昭和46年度(第20回)	広島市平和記念館 {兼 全国大会研修会}
昭和47年度(第21回)	広島市国泰寺中・広島市宇品中・女学院中
	広大附属東雲中 {兼 第23回放送教育全国大会}
昭和48年度(第22回)	豊田郡安芸津中
昭和49年度(第23回)	三次文化会館
昭和50年度(第24回)	呉市両城中
昭和51年度(第25回)	深安郡神辺中
昭和52年度(第26回)	広島市国泰寺中
昭和53年度(第27回)	佐伯郡宮島中
昭和54年度(第28回)	山県郡大朝中
昭和55年度(第29回)	豊田郡生口中
昭和56年度(第30回)	賀茂郡大和中
昭和57年度(第31回)	高田郡美土里中
昭和58年度(第32回)	福山市松永中
昭和59年度(第33回)	広島市大州中 {兼 中国大会}
昭和60年度(第34回)	双三郡三和中
昭和61年度(第35回)	豊田郡木江中
昭和62年度(第36回)	呉市吉浦中
昭和63年度(第37回)	山県郡戸河内中
平成 元年度(第38回)	広島市亀崎中 {兼 第40回放送教育全国大会}, 広島市国泰寺中
平成 2年度(第39回)	沼隈郡千年中
平成 3年度(第40回)	比婆郡西城中
平成 4年度(第41回)	安芸郡熊野東中
平成 5年度(第42回)	尾道市浦崎中
平成 6年度(第43回)	高田郡高宮中
平成 7年度(第44回)	佐伯郡大柿中
平成 8年度(第45回)	福山市精華中
平成 9年度(第46回)	甲奴郡上下中
平成10年度(第47回)	県民文化センター {兼 中国地方放送教育研究会交流集会}
平成11年度(第48回)	広島市国泰寺中 {兼 中国地方放送教育研究大会}
	(10月29日(金)於:国泰寺中・県民文化センター)
平成12年度(第49回)	三原市立第一中 平成12年10月20日(金)

平成13年度(第50回)	山県郡大朝中 平成13年10月26日(金)
平成14年度(第51回)	賀茂郡福富町立福富中 平成14年10月30日(水)
平成15年度(第52回)	神石郡豊松村立豊松中 平成15年10月31日(金)
平成16年度(第53回)	三次市立八次中 平成16年10月22日(金)
平成17年度(第54回)	廿日市市立野坂中 平成17年10月18日(火)
平成18年度(第55回)	尾道市立吉和中 平成18年10月18日(水)
平成19年度(第56回)	呉市立天応中 平成19年11月16日(金)
平成20年度(第57回)	西部ブロック 県民文化センター
	{兼 中国地方放送教育研究交流集会} 平成20年8月8日(金)
平成21年度(第58回)	西部ブロック 広島市国泰寺中・県民文化センター
	{兼 中国地方放送教育研究大会} 平成21年11月13日(金)
平成22年度(第59回)	東部ブロック 福山市立鞆中 平成22年9月22日(水)
平成23年度(第60回)	中部ブロック 安芸高田市立甲田中 平成23年11月11日(金)
平成24年度(第61回)	西部ブロック さいき文化センター 平成24年10月24日(水)
平成25年度(第62回)	東部ブロック 三原市立幸崎中 平成25年11月15日(金)
平成26年度(第63回)	中部ブロック 坂町立坂中 平成26年11月12日(水)
平成27年度(第64回)	広島市立城山中 平成27年11月27日(金)
平成28年度(第65回)	東部ブロック 府中市立上下中 平成28年11月2日(水)
平成29年度(第66回)	中部ブロック 庄原市立口和中 平成29年11月14日(火)
平成30年度(第67回)	広島市立城山中(中会場) 平成30年11月16日(金)
	全体会, 実践発表: 広島国際会議場 11月17日(土)
	兼 第22回視聴覚教育総合全国大会/第69回放送教育研究会全国大会
	中国地方放送教育研究大会
令和 元年度(第68回)	西部ブロック 廿日市市立四季が丘中 令和元年11月14日(木)
令和 2年度(第69回)	東部ブロック 竹原市立吉名学園 令和2年10月15日(木)
令和 3年度(第70回)	中部南ブロック 東広島市立安芸津中 令和3年11月11日(木)
令和 5年度(第71回)	中部北ブロック 安芸太田町立加計中 令和5年11月14日(火)
令和 7年度(第72回)	東部ブロック 福山市立城東中 令和7年10月29日(水)

Ⅱ 役員名簿

【広島県中学校教育研究会視聴覚教育部会】

部会長	中本 和彦	広島市立戸坂中学校 校長
副部会長	永久 進一	福山市立精華中学校 校長
副部会長	藤井 規光	福山市立城東中学校 校長
監事	葛籠 直人	広島市立牛田中学校 校長
監事	甲元 宏章	広島市立亀山中学校 校長
事務局長	下土居徹也	広島市立湯来中学校 教諭

【広島県中学校視聴覚教育研究大会福山大会現地実行委員会】

実行委員長	永久 進一	福山市立精華中学校 校長
副委員長(開催校校長)	藤井 規光	福山市立城東中学校 校長
副委員長(会計監査)	明賀 果織	福山市立大成館中学校 校長
事務局長	森上 智広	福山市立城東中学校 教頭
事務局次長	池岡 真美	福山市立城東中学校 教諭
実行委員	福山市立中学校・義務教育学校 各校 1名	

Ⅲ 研究同人

【福山市立城東中学校】

藤井 規光	森上 智広	坂本 真弓
小町 大樹	合田 清香	山治茉理奈
遠藤 健一	圓滿 直樹	河内 優作
瀧本 憲史	池田 悠真	橋本 航弥
深野 優	大橋 舞人	津田 紘志
廣田 将義	出射 直子	藤井 彩乃
山下 祐子	元木 勇雅	原 颯汰
池岡 真美	尾川 拓己	加藤 久枝
佐藤 真弓	中島 まなみ	野田 晴久
河相 恵子	仁木 真美	川崎 志織
高木 彩	殿川 美紀	園田 将勝
秋山 典子	藤原 一彦	田邊 智美
羽原 和枝	吉野 美貴	

本研究大会は、公益財団法人広島県教育振興会より教育研究の助成を受けて活動を推進しています。



広島県中学校教育研究会視聴覚教育部会
広島県中学校視聴覚教育研究大会福山大会実行委員会